

セゾン総合研究所 日本の社会システムはどうあるべきか
月例セミナー第39回 政治・経済・文化・思想の新しいパラダイム
於：ランドビル市ヶ谷

2002. 1. 22
橋爪大三郎
(社会学)

□0□ 講師自己紹介

はじめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論——ヴィトゲンシュタイン・ハート・ルーマン』、『仏教の言説戦略』、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『僕の憲法草案』(共著、ポット出版)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『橋爪大三郎の社会学講義』、『同2』(夏目書房)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『天皇の戦争責任』(共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著、廣済堂出版)、『その先の日本国へ』(近刊・勁草書房)、ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ これからの政治システムは、どうあるべきか

- 1) 小泉政権のねじれ構造と、改革の課題 郵政民営化＝「改革派」のアイデンティティ
 - ・異常に高い支持率 その内訳 85%＝自民党支持35%＋無党派(反自民)50%
 - ・離党カード 田原氏によると、小泉氏は総裁選で負け、離党→新党を考えていた
 - ・長期政権へ? 続く高支持率＋アメリカの支持 ～自民党守旧派も攻めあぐねる
- 2) おまかせの意思決定から、選択と責任の民主主義へ
 - ・構造改革＝リバタリアン政策＝反補助金・福祉＝反「公明党＋自民抵抗勢力＋社民党」
 - リバタリアン……経済的自由を重視(＝保守主義)&個人の自由を重視(＝リベラル)
 - 民間ができることを政府はやらない →特殊法人改革 →財政改革(特別会計)
 - ・国会の機能強化 次点歳費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
 - ・中央省庁の権限縮小・簡素化・意思決定機能強化 役職公募制 産官学の人材流動
 - ・地方の自立 財源(たとえば消費税)を移管して交付税を廃止 委任事務廃止
- 3) ポスト冷戦の外交・安全保障・
 - ・日米安保～正規戦を想定～アメリカの集団的自衛権＋日本の個別自衛権
 - ・新ガイドライン＋MD(ミサイル・ディフェンス) ポスト冷戦の力学＋中国封じ込め
 - 周辺事態：そのまま放置するとわが国の安全に重大な影響を及ぼす、周辺地域の事態
 - ・軍事革命(RMA)……消耗戦から麻痺戦へ 敵主力を破壊せず無能化～コンピュータ制御の弱点～同時多発的に精密・適時の攻撃～前線/後方、軍事/民間の差異消滅
 - ・テロ＋テロ支援国家 vs 主権国家連合 日本の危機管理が拙劣ならテロの標的に
 - テロ特措法……テロ支援国家に対する米軍の自衛戦争を支援 ⇨集団的自衛権(!)

□2□ これからの経済システムは、どうあるべきか

- 1) 戦後日本の軌跡と、停滞の90年代——長期的視点からみて
 - ・戦後日本の不幸な出発 ～財閥解体・統制、官僚の優位 cf戦前資本主義は純粋だった
 - 高度成長 →終身雇用・年功序列・日本型管理の定着(GNPの拡大が前提)
 - ・80年代バブル 生産力過剰と円高→銀行の融資は土地担保の非製造業に→信用膨張
 - 雁行型アジア経済成長→中国脅威論の台頭 中国は本来の地位に復帰しつつあるだけ
 - ・中型で強力な体質の経済 80年代の経済大国は過去のものに割り切る →生産性重視
 - 政治～経済～安全保障～科学技術～文明観 が一体となった、冷静な世界認識が必要
- 2) 経営者の自立：企業統治(コーポレート・ガバナンス)の回復
 - ・意思決定(迅速・正確・専門的)の強化 ←トップリーダーの養成・抜擢(競争環境)
 - cf 若手経営者の率いる中国の新興企業 楊元慶/联想電腦(PCシェア30%)社長・37歳、梁海山/海爾空調社長・35歳(95～)、格蘭仕(電子レンジ世界シェア35%)
 - ・社員だからと「対等に扱わない」 →有能な人材を正しく処遇する道 信賞必罰

- 企業文化の「革命」 困難なら、新興企業と競争させるべき cf野村証券vs松井証券
- ・規制緩和 ×不要な規制をなくす→○必要と証明された規制だけ残す(国会の委員会)
- 3) 政府の役割の再定義
 - ・軍事・外交等の中央政府機能 地方政府、民間企業、NGOがやれることはやらない
 - ・公共事業による景気対策はやらない 市場の正常な自律性を支援する役割に徹する
 - ・大学・研究機関に、間接的に、競争的経費の投入を
 - ・国際協力の戦略を 教育援助(初等識字教育→人口↓) 在来農法・技術援助

□3□ これからの文化システムは、どうあるべきか

- 1) アカデミック・マネジメントにもとづく大学再生 ～科学技術創造立国
 - ・人事改革 教授人事(×教授会自治→○学長) 終身職(テニウア)を10人に1人に
 - 年俸制&任期制 教授→準教授→助教授→初任(研究費を人件費に使えるように)
 - ・研究費の競争的配分 公的資金→複数のNGO→研究者 NGOの費用効果も判定
 - ・研究開国……研究ポスト(社会的資源)を外国人を含むすべての人びとに開放
- 2) 選択・責任・連帯の教育改革 入試システムから自立支援システムへ
 - ・小中学校：学区制の廃止 →親・生徒に学校の選択権、学校(校長)の説明責任
 - 校長に経営権(含人事権)を、学校理事会の設置 教育委員会の縮小
 - ・高校：入試廃止→書類選考 個人カリキュラムの編成
 - 高検(高等学校学力検定試験＝学力証明)の導入 ほかにも資格を充実
 - ・大学：入試廃止 学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金
- 3) 多文化主義(マルチ・カルチャリズム)社会への転換
 - ・世界の人びとを魅きつける日本へ 寛容：多様な民族コミュニティ間の平等
 - ・単一国家神話からの離脱 日本孤立主義(エタリズム)からの脱却 ×ムラ原理
 - 人びとが異質であることが当然で、個々人が自由に生を設定できる社会を築く
 - ・公民権制度を導入 →在日外国人を日本社会の正規メンバーに →統一コリアに対応
 - 企業の多国籍化、大学の国際化 英語(準公用語)で生活ができる社会に
 - ・明瞭な世界戦略とメッセージを
 - 非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化

□4□ 21世紀日本の、思想的課題

- 1) 「戦後」との決別——歴史・靖国・東京裁判 →国民と国家の再定義へ
 - ・教科書問題 韓国・中国は国定教科書 隣国条項の悔恨 民主主義の原則
 - 政府は教科書の当事者でない いろんな見解や教科書があるのは可 民間の努力
 - ・靖国神社≠戦争神社 神道は宗教でない?!→神道指令 靖国神社は墓地でない
 - 「A級戦犯＝悪＝参拝不可」は思考停止 英霊を靖国神社が独占 問題の解決とは?
 - ・歴史と向き合う国民 学生交流、民間対話、史跡訪問、芸術作品助成、……
- 2) 文明としての日本 日本語を磨きあげる努力
 - ・日本はローカルな文化であるとよく認識 異文化としての中国文明、西欧文明
 - ・日本の歴史と伝統を、普遍言語で語る努力 政府→アカデミクの往復運動を
 - ・日本人の思索を、世界の人びとの目に見えるかたち(英語)で行なう努力
- 3) なんのための改革か——その先の日本国へ
 - ・日本という国家を、そこに生きる人びとの生と自由と自立と幸福を増進するために
 - ・日本国を、非西欧文化の近代化のモデルに ←対中国、第三世界への影響力
 - ・日本列島に国家を維持する理由と正当性を、言葉にできるように AUへの道

参考文献

- 東 浩紀 2001 『動物化するポストモダン——オタクから見た日本社会』講談社現代新書
アル・グラスビー 1974=2002 『オーストラリア流 元気な多文化主義』(解説：橋爪) NTT出版・近刊
中村好寿 2001 『軍事革命(RMA)——<情報>が戦争を変える』中公新書
森村 進 2001 『自由はどこまで可能か——リバタリアニズム入門』講談社現代新書
小熊英二 1995 『単一民族神話の起源』新曜社、1998 『<日本人>の境界』新曜社

富士通経営研修所 自分を活かす思想／
ミッド幹部人間力コース 社会を生きる思想
於：小杉カブレイ

2002.1.31
橋爪大三郎
(社会学)

□0□ 講師自己紹介

はじめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論——ヴィトゲンシュタイン・ハート・ルーマン』、『仏教の言説戦略』、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『僕の憲法草案』(共著、ポット出版)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『橋爪大三郎の社会学講義』、『同2』(夏目書房)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタローグ)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『天皇の戦争責任』、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』(以上共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著、廣済堂出版)、『政治の教室』(PHP新書)、『その先の日本国へ』(近刊・勁草書房)、ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 自分を活かす思想とは

1) 思想を持つと、生きにくい？

- ・理想の時代／虚構の時代／動物の時代 ←大澤真幸・東浩紀の仮説
1970年ごろまで、人びとは、大きな物語(イデオロギー、思想)を信じて生きてきた消費社会の到来とともに、思想は「重く」「ネクラ」になり、現実感を失ったそれでも人びとは、これではいけないと、物語を捜し求めた(オタク、オウム)
- ・思想は、できあいのイデオロギー、自分と社会をみるメガネを意味した。
近代主義のメガネ →日本は遅れている～西欧というモデル
マルクス主義のメガネ →日本は間違っている～共産主義というモデル
ナショナリズムのメガネ →国際社会はエゴイズムである～共同体というモデル
- ・「終わりなき日常を生きる」 ←宮台真司のテーゼ Qこのテーゼ自体がモラル志向？
マッターリvsアナクロ(上田紀行・橋爪の『大航海』対談) 現代日本の二大潮流

2) ひとはなぜ、思想を持つのか？

- ・思想の定義……考えをまとめて書き記したもので、人間が社会のなかで経験するさまざまな状況についてあらかじめ指針を与えるもの →一種の危機管理
思想は、人間がよりよく、より有意義に、よりうまく生きるための工夫である。
- ・社会の制度は、思想のうえに組み立てられる →思想を知れば、社会がわかる
社会の制度は、時代とともに変化する →思想を知れば、制度を相対化できる
- 3) 自分とは何なのか？
・自分＝役割の束(社会学者パーソンズ、歴史学者フーコーの学説) 社会化、規律訓練
人生は、選択の連続 選択(役割を引き受けること)に、合理的な理由はない
- ・個性 cf『アマデウス』 人間が平等であることで説明できない→天才(独創性)
独創性のゲーム(芸術、科学、特許、著作権) →大多数の人びとは取り残される
- ・普通であることの輝き 平均的、画一的であることを越える、自分の内側の眼
Q 暴走族の兄ちゃんが、仕事を持ったり結婚したりするとまともになるのはなぜ？

□2□ 社会を生きる思想とは

1) 社会を生きたら、どういうことか？

- ・社会～さまざまな人びとの集まり～さまざまな思想で生きる人びとのぶつかりあい
個人として……社会(人びとのあり方)についての見取りがないと、生きにくい
社会として……社会を見渡すような特権的な個人は、どこにもいてはいけない

個人派(自分の実感が伴うことだけ考える)／社会派(自分のことは括弧に入れる)

- 竹田青嗣、加藤典洋 橋爪大三郎
- ・思想のミニマリズム (ミニマリズムは、最小限の技法を使う現代絵画の一流派)
：考えてもよいし、考えなくてもよいことは、社会を生きる思想の課題とはしない
→誰もが必ず通過する、社会を生きる課題だけを考える →人びとの共通基盤になる

2) 社会を満たす、価値と意味

- ・価値……ある社会の人びとが大事だと思うことから(ex貨幣、…)
〔定理〕みんなが大事だと思うことを、あなたも大事だと思わないわけにはいかない
なぜあるものが価値があるのか、人びとは説明できないし、十分に意識してもいない
- ・意味……ある社会の人びとが、その社会のさまざまな価値を理解するやり方
〔定理〕意味づけは互いに連関しているので、すべてが無意味であると言っても同じ
- ・社会はさまざまな価値や意味に満ちている。それは、誰か一人がつくったものではない
社会を満たすさまざまな価値や意味がなければ、個々人の人生は成り立たない
- 3) グローバリゼーションとは何か？
・社会はそれぞれ固有の価値や意味をもっている 文化、伝統、歴史、宗教
・異文化：異なる社会が遭遇して、互いを発見する視線 →構造的誤解(差別)
世界単一市場⇔多文化共存 多文化主義(マルチ・カルチュラリズム)
・多文化主義：それぞれのコミュニティが、文化・民族の背景を大事にして共在する技術
アメリカ、EU、中東、インド、中国、オーストラリア、東南アジア～多文化主義
→日本の「単一民族主義」は、世界と逆方向

□3□ 2002年、日本の課題

- 1) 政治：重点領域の第一 ←『政治の教室』
・構造改革＝リバタリアン政策＝反補助金・福祉＝反「公明党＋自民抵抗勢力＋社民党」
リバタリアン……経済的自由を重視(≒保守主義)&個人の自由を重視(≒リベラル)
民間ができることを政府はやらない →特殊法人改革 →財政改革(特別会計)
- ・国会の機能強化 次点歳費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
- ・中央省庁の権限縮小・簡素化・意思決定機能強化 役職公募制 産官学の人材流動
- ・地方の自立 財源(たとえば消費税)を移管して交付税を廃止 委任事務廃止
- 2) 教育：重点領域の第二 入試⇒自立支援 ←『選択・責任・連帯の教育改革』
・小中学校：学区制の廃止 →親・生徒に学校の選択権、学校(校長)の説明責任
校長に経営権(含人事権)を、学校理事会の設置 教育委員会の縮小
- ・高校：入試廃止⇒書類選考 個人カリキュラムの編成
高検(高等学校学力検定試験＝学力証明)の導入 ほかにも資格を充実
- ・大学：入試廃止 学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金
- 3) 企業：重点領域の第三 ←『強いサラリーマン、へたばる企業』
・抜擢人事(年功序列をやめる)、役職公募制、年俸制、専門職能の重視
- ・意思決定(迅速・正確・専門的)の強化 ←トップリーダーの養成・抜擢(競争環境)
cf 若手経営者の率いる中国の新興企業 楊元慶／聯想電腦(PCシェア30%)社長・37歳、梁海山／海爾空調社長・35歳(95～)、格蘭仕(電子レンジ世界シェア35%)
- ・社員だからと「対等に扱わない」 →有能な人材を正しく処遇する道 信賞必罰
→企業文化の「革命」 困難なら、新興企業と競争させるべき cf野村証券vs松井証券
- 4) 個人が誇りをもって生きられる社会をつくろう

参考文献

- 東 浩紀 2001 『動物化するポストモダン——オタクから見た日本社会』講談社現代新書
- アル・グラスピー 2002 『寛容のレシピ：元氣な多文化主義(仮題)』(解説・橋爪) NTT出版
- 森村 進 2001 『自由はどこまで可能か——リバタリアニズム入門』講談社現代新書

2002-5-(3)

民主統一同盟
於：東京事務所

民主統一同盟の どこがわかりにくいのか

2002. 2. 11
橋爪大三郎

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論——ヴィトゲンシュタイン・ハート・ルーマン』『仏教の言説戦略』『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『僕の憲法草案』（共著、ポット出版）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『冒険のつくりかた』（ポット出版）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（以上共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版）、『政治の教室』（PHP新書）、『その先の日本国へ』（近刊・勁草書房）、ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 政党とはなんだろう

- 1) 政策政党
- 2) 階級政党
- 3) 地域政党
- 4) シングル・イシュー・パーティー

□2□ 民主統一同盟とはなんだろう

- 1) 有権者の啓蒙団体？
- 2) 政治家の教育機関？
- 3) 政界の圧力団体？
- 4) 選挙のコンサルタント？

□3□ 民主統一同盟はどこへ行く

- 1) 政党でないのに政党に類似した団体は、かえって迷惑
- 2) 政治家の教育機関に特化するのか
- 3) 選挙のコンサルタントに特化するのか
- 4) それ以外にどんな役割がありうるか

おまけ

2002 4 9

月刊読者人

橋爪 大三郎著 その先の日本国へ

社会学者・橋爪氏が九〇年代末から最近にかけて綴ってきた社会時評集。社会・教育・政治の各分野について、比較的短い文章を収めている。

テーマは多岐にわたっている。家族問題やひきこもり、街づくりからレジャー、新宗教、大学改革、小泉人気、歴史教科書に首相参拝、改憲等々、一見したところ共通点がないが、総じて言えるのは、「民主主義」の観点から改革案を提言するという姿勢だ。ここで橋爪氏が「民主主義」と言うのは、人々が自発的な合意すなわち「契約」によって自身を拘束するルールを決めること。したがって憲法さえもそれが存在する以前の白紙状態に遡って修正案が提案されねばならない。それはたとえ平和について検討するのにも、「第九条があるから」といった論拠を持ち出さないといいことだ。憲法が存在しない地点に戻り、平和を構築するすべを再考するのである。

「民主主義」の観点から

ラジカルな日本改革論を提言する

松原 隆一郎

これは戦後日本において、もっとも急進的な姿勢であろう。「革新派」は政治に近づくことなく、社会主義の革新を唱えてきたが、憲法は戦後日本においてきた。橋爪氏は、それらのいっさいについて民主主義によって改革しようと呼ぶ。これによって憲法から大学、街づくりなどすべての改革を行おうというのである。その意味で本書は、ラジカルな民主主義者による日本改革論だと言える。

今、こうした立場が打ち出されねばならない理由もまた明確だ。昨年の九・一一テロ以降、国際安全保障体制が変化したからである。国が戦争や紛争の主体である場合には、消極的に（片務的に）のみ集団安全保障につきあう国があっても構わない。日米安保はそうした機能してきた条約である。ところがテロは、すべての国が積極的に機能に協力しない限り、その純びに寄生する。したがって解釈改憲では収まらないため、憲法第九条を改正し、集団安全保障は近代資本主義の二



46判・324頁・2200円
勁草書房
4-326-65267-5

トスをキリスト教とし、その疑念を物でしかなく、た天皇制をエトスとしたために日本は改革もままならぬ反近代的組織しかもてないのだという。

けれども、近代とは個人主義の時代であり、民主主義も資本主義もアメリカ的なものが至上であるというのには、社会学の思いこみでしかない。近代資本主義のエトスとしてプロテスタンティズムが必須だというウェーバー説自体が未だに反論にさらされており、日本のみならずアジア諸国までが経済発展しつつあるこの時代には、ますます疑義は深まっている。こうした社会学的思考様式にも、構造改革が求められているのである。（まづはら・りゅういちろう氏＝東京大学教授・社会学専攻）

★はしづめ・だいさぶろう氏は東京工業大学教授・社会学専攻。東大大学院博士課程修了。著書に『言語ゲームと社会理論』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『言語派社会学の原理』『世界がわかる宗教社会学入門』など。一九四八（昭和23）年生。

佐賀政経懇話会
伊万里有田2月例会
佐賀厚生年金休暇センター

これでだいじょうぶか、
学力低下？

2002. 2. 15
橋爪大三郎

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいの』『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『性愛論』（岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』（以上共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版）、『政治の教室』（PHP新書）、『研究開国』（共著、富士通パックス）、『その先の日本国へ』（近刊・勁草書房）、ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 日本の教育135年をふり返る

1) 教育の主体は、親か国家か？——明治維新と義務教育

- ・寺子屋、女紅場から小学校へ 江戸後期の高い識字率、学習熱、民間教育の隆盛
⇒文部省は、西欧的な学校制度を導入 親の反対を押して子どもを学校に行かせた
- ・国家予算の約四分の一が教育費 教員不足→代用教員 教師は尊敬を受けた

2) 東大法学部はなぜつくられたか——藩閥政治と帝国大学

- ・明治リーダーの交代 薩長藩閥→東大エリート 試験（派閥、人間関係に無縁）～官僚
- ・戦前の高等教育は一部の人のものだった 旧制中学～旧制高校～旧制大学

3) 総力戦と国民学校

- ・尋常小学校→国民学校（ドイツのFolksschuleのまね）に改組 児童＝小国民 学区制 勤労動員、奉仕、総合的学習（みたいなもの）を取り入れた →学力低下

4) GHQと戦後教育改革

- ・6・3・3・4制、PTAと教育委員会、民主主義教育
改革のねらい：国家主導→コミュニティ主導、戦前エリート教育の解体、民主化
- ・戦後改革はなぜ定着しなかったか 冷戦→保革対立→日教組の台頭→文部省の管理教育

□2□ 戦後教育の行き詰まり

1) 高度成長と戦後教育の変質

- ・進学率の上昇→高学歴化→学習動機の低下、不本意進学増加、教師の威信低下
- ・受験→塾・予備校の隆盛→学校教育の空洞化 消費社会→情報氾濫→学校の立ち遅れ

2) 「偏差値」のどこがいけないのか

- ・偏差値：標準偏差の一種 テストが違えば、偏差値も違う 「偏差値」の一人歩き
共通一次試験の失敗……全国規模で普通教育に基づく競争試験を行なったこと
- ・資格試験/競争試験 競争はあって当然。だが到達度試験を競争試験にしてはだめ
絶対評価/相対評価 「絶対評価」に対する誤解 価値の多様性に対する誤解

3) 「ゆとり教育」のまやかし……ブレーキとアクセルを同時に踏んではいけない

- ・クラス一斉授業（学習指導要領）→できる子/落ちこぼれ→詰め込み/ゆとり
- ・学校教育がすべてだという勘違い 「学校は友達と会う場所、勉強は塾でやる」
- ・「ゆとり」よりも、わかるように、わかるまで教える「学力保証」を

□3□ 学力低下、これでだいじょうぶか？

1) 学力低下は本当に低下しているのか

- ・OECDの学力調査（中3）～国別の上位でまずまず では、安心していいのか
→安心できない ∵1) 昔はトップだった 2) もともと日本の得意は小中学校
- ・どういう学力がどのように低いのか

成人の理科常識試験でひどい成績……科学的関心を維持していればわかる問題

2) 学力低下はなぜ起こったのか

- ・消費社会化 生活習慣や行動様式の変化にともなう学力低下
本を読まない、大人の話聞かない、好きなことしかしない、将来に対する無関心
- ・社会の保守化と安定化 都市化の第二世代は、親の所得や学歴を越えるのが困難
→フリーター、パラサイトシングルの増加

3) 学力を向上させるには、どうしたらよいのか

- ・到達目標をはっきりさせよう 自立の支援のための教育（勝負は成人以降）
共通教育～市民社会のシビルミニマム→資格試験化 競争はあってはならない
専門教育～職業生活の基本→競争的性格があるべき 将来の進路により個別化
- ・方法（教え方やマネジメント）を自由化し、結果（到達度）を管理しよう
- 4) 3割削減、総合的学習の導入で、どうなる？
- ・官僚主導の上からの「ゆとり」教育 寺脇課長が「現場の自由」を宣伝する不思議
- ・教室での一斉授業が成り立たなくなっている →内容を減らしてつじつま合わせ
- ・総合的学習 →現場が混乱 学校で「総合的学習」をするのではなく、学校を包みこむ
もっと大きな社会的文脈のなかで、この世界を総合的に学習することが本筋では
- ・文科省の改革は、問題の根源である入試に手をつけようとしないうちに →非本質的な改革

□4□ 「選択・責任・連帯の教育改革」が、日本を救う

1) 入試（入学）中心のシステムから、学力確認（卒業）中心のシステムへ

- ・入試：教育資源を偏って配分する仕組み → Th. 入試が難しいほど入学後は空洞化する
- ・入試（学校歴）重視を改め、自立（学力）支援のシステムへ脱却を
日本社会のみえないインフラが掘り崩されている →自ら社会を構築する主体を育てよ

2) 小中学校の改革

- ・学区制を廃止 →親・生徒に学校の選択権、学校（校長）の説明責任
- ・校長に経営権（人事権、予算権、カリキュラム権）を与え、公募制に
学校理事会（校長を任免、監督する）の設置 教育委員会はサポート役に縮小

3) 高等学校の改革

- ・高校入試を廃止 →書類選考 コア・プログラム+個人カリキュラム ×職業高校
- ・高検（高等学校学力検定試験＝高1程度の学力証明）の導入 →教育ルートの複線化
高検以外に、多様な資格試験（物理三段、世界史一段、…）を用意 →進学・就職

4) 大学の改革

- ・大学入試を廃止 学費をアップし、コストを負担すれば入学できる 180万円/年
- ・奨学ローン、奨学金の充実 社会的公正の確保（行くべき人が大学に行けるように）
奨学ローン：学資にあたる金額を学生個人に市場金利で貸し付ける 1200万円/卒業
奨学金：学資の一部～全部を大学での成績に応じて、免除・給付する ←公的資金
- ・研究開国：ポスドクや正規ポストを世界に開く、大学のバイリンガル化、…

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいの』『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『性愛論』（岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』（以上共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版）、『政治の教室』（PHP新書）、『その先の日本国へ』（近刊・勁草書房）、『寛容のレシピ』（近刊・NTT出版）ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ 9.11「同時多発テロ」以後の世界

- 1) 「同時テロ」事件以後の国際秩序 核抑止戦力は無意味になった?!
 - ・軍事革命(RMA)……消耗戦から麻痺戦へ 敵主力を破壊せず無能化～コンピュータ制御の弱点～同時多発的に精密・適時の攻撃～前線/後方、軍事/民間の差異消滅
 - ・テロ&テロ支援国家 vs 主権国家連合 テロに対して戦争で対抗→日本の役割?
 - ・テロをなぜ憎むのか 日本人は殺さない/殺すの違いのみ重視。しかしキリスト教文明は、過失/正当防衛/戦争/処刑/殺人/虐殺&テロ、の順に悪の度合いを区別
 - ・ブッシュ「悪の枢軸」発言 背景～差し迫る北朝鮮危機 オウム～アルカイダ
- 2) 安全保障と日米関係 ブッシュ政権が小泉政権を支持するのはなぜか
 - ・日米ガイドライン改定(97) 「周辺事態」～台湾海峡は入るのか? 対中抑止力
 - ・MD(ミサイル防衛)=TMD(戦域……)+NMD(本土……) →集団自衛権!
 - ・下降するアメリカ経済&台頭するアジア ⇨欧日との連携・ハイテク戦力・封じ込め
- 3) 「テロ特別措置法」と集団的自衛権
 - ・日米安保～正規戦を想定～アメリカの集団的自衛権+日本の個別自衛権
 - ・新ガイドライン……「周辺事態」に出動する米軍を後方支援～後方=非戦闘地域
周辺事態: そのまま放置するとわが国の安全に重大な影響を及ぼす、周辺地域の事態
 - ・テロ特措法……テロ支援国家に対する米軍の自衛戦争を支援 ⇨集団的自衛権(!)

□2□ 文明の衝突か、それとも文明の共存か

- 1) 文明は衝突するのか
 - ・チャイナ～イスラム・コネクションとは何か 粗雑な「異文化=悪」のイメージ
 - ・アメリカン・イデオロギー アメリカは人造国家 独立戦争+南北戦争
 - ・グローバリゼーション下における、新大陸vs旧大陸の争い? 旧大陸: 中国、イスラム
- 2) イスラム原理主義とは何か
 - ・原理主義 Fundamentalism: プロテスタントに特有の一派 逐条霊感主義 バイブル・モンキートライアルの論理: 聖書と進化論は矛盾→キリスト教も進化論も信仰→どちらも公教育で教えるな
 - ・イスラム原理主義……キリスト教の側の用語 西欧文化と接触した反動形成
 - ・イランイスラム革命～神聖国家(法学者の支配) 保守派vs改革派 cf. 機関説論争

- 3) 宗教的急進主義(テロリズムを含む)は、21世紀の普遍的なカタチ
 - ・宗教的急進主義: 1) もうひとつの理想、2) 献身と正当化、3) 国境を越えて伝播
 - ・宗教的急進主義は、資源の再分配と平等を志向する →反アメリカ、反先進国
 - ・宗教的急進主義に対する有効な反撃……1) 希望、2) 現実主義、3) 正義
先進国にはモラルが必要である

□3□ 21世紀日本の課題 日本の国民としての主体性を取り戻そう

- 1) 歴史の問題: 戦前～戦後の連続問題 ←『天皇の戦争責任』
 - ・加藤典洋の提起 300万の死者/2000万の死者 まず 300万を哀悼すべき
 - ・大東亜戦争の死者を、なぜ、どのように哀悼するか 公民としての義務=兵役
 - ・東京裁判の不正 戦時国際法～戦争犯罪 A級戦犯: 人類に対する罪～事後法
 - ・南京大虐殺の問題性 虐殺の定義 戦場における民間人保護義務を怠る
- 2) 思想の問題: 日本固有性～世界普遍性の問題
 - ・ポストモダンの饒舌さ、いかがわしさ 東浩紀: そこから脱却をはかる世代的宣言
 - ・近代(モダニズム)の不徹底に対してどう直面するか
 - ・創造性……固有性と普遍性をつなぐもの 日本オリジナルな創造性の発信
- 3) 政治の問題 ～国民の自己決定能力の強化
 - ・国会の機能強化 次点歳費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
 - ・中央省庁の権限縮小・簡素化・規制撤廃 特殊法人の廃止・民営化 職務公募制
 - ・地方政府の自立 財源(たとえば消費税)を移管して交付税を廃止 委任事務廃止
 - ・構造改革=リバタリアン政策=反補助金・福祉=反「公明党+自民抵抗勢力+社民党」
リバタリアン……経済的自由を重視(≒保守主義)&個人の自由を重視(≒リベラル)
- 4) 宗教の問題 実存の問題を自分の言葉で語るために
 - ・仏教の墮落と衰退 戒名: 仏典に根拠なし 葬儀の機会に収奪⇔檀家制の崩壊
 - ・家族と宗教の再遭遇 『家族でできる葬儀と法要』(近刊・乞ご期待)
- 5) 明瞭な世界戦略とメッセージを
 - ・東アジア国家としての再出発 アジア諸国共存のための国際秩序を
公民権制度を導入 →在日外国人を日本社会の正規メンバーに →統一コリアに対応
 - ・非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化の利点
 - ・国際協力の戦略を 教育援助(初等識字教育→人口↓) 在来農法・技術援助
 - ・多文化主義(マルチカルチュラルイズム)の支援を 優秀な人材を吸引
たとえば、研究開国 研究ポストを世界に開放

(参考)

中村好寿 2001 『軍事革命(RMA)——<情報>が戦争を変える』中公新書
森村 進 2001 『自由はどこまで可能か——リバタリアニズム入門』講談社現代新書
橋爪大三郎 2001 「首相参拝」は合憲である 『諸君!』33巻10号

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいの』『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『性愛論』（岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（以上共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版）、『政治の教室』（PHP新書）、『その先の日本国へ』（近刊・勁草書房）、『寛容のレシピ』（近刊・NTT出版）ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 「同時多発テロ」以後の、安全保障と国際秩序

1) 日本国憲法下の安全保障

- ・主権国家の憲法は、軍隊の組織と軍事指揮権を明記 →安全保障の主体と責任
- ・日本国憲法は、軍隊の規定なし →他国の軍隊と共同行動をとることに制約
- ・日米安保～正規戦を想定～アメリカの集団的自衛権＋日本の個別自衛権

2) 「テロ特別措置法」と集団的自衛権

- ・新ガイドライン……「周辺事態」に出動する米軍を後方支援～後方＝非戦闘地域
周辺事態：そのまま放置するとわが国の安全に重大な影響を及ぼす、周辺地域の事態
- ・テロ特措法……テロ支援国家に対する米軍の自衛戦争を支援 ⇒集団的自衛権（！）
- ・テロをなぜ憎むのか 日本人は殺さない／殺すの違いのみ重視。しかしキリスト教文明は、過失／正当防衛／戦争／処刑／殺人／虐殺&テロ、の順に悪の度合いを区別

3) 「同時テロ」事件以後の国際秩序と、日本の安全保障

- ・軍事革命（RMA）……消耗戦から麻痺戦へ 敵主力を破壊せず無能化～コンピュータ制御の弱点～同時多発的に精密・適時の攻撃～前線／後方、軍事／民間の差異消滅
- ・テロ&テロ支援国家 vs 主権国家連合 テロに対して戦争で対抗→日本の役割？
- ・ブッシュ「悪の枢軸」発言 背景～差し迫る北朝鮮危機 オウム～アルカイダ

□2□ 小泉政権と、改革の課題

1) 小泉政権のねじれ構造 郵政民営化＝「改革派」のアイデンティティ

- ・異常に高い支持率 その内訳 85％＝自民党支持35％＋無党派（反自民）50％
⇒田中外交更迭による支持率低下、党内力学の変化 改革を叫ぶピエロで終わるのか
- ・離党カード 田原氏によると、小泉氏は総裁選で負け、離党→新党を考えていた

2) 待ったなし経済政策 デフレ対策か財政再建か

- ・景気対策／構造改革の矛盾 景気刺激～有効需要創出～歳出増／構造改革～歳出減
- ・不良債権とは 銀行の貸付け問題と考えるな 過剰設備、無駄な公共投資のツケ
⇒国民の負担（痛み）は必至 賃金水準の引き下げ、投資優遇、外資導入
- ・経済政策の矛盾を克服するのは、一国経済→世界経済への発想の転換 →日本エイド

- 3) 安全保障と日米関係 ブッシュ政権が小泉政権を支持するのはなぜか
・日米ガイドライン改定（97）「周辺事態」～台湾海峡は入るのか？ 対中抑止力
- ・MD（ミサイル防衛）＝TMD（戦域……）＋NMD（本土……） →集団自衛権！
- ・下降するアメリカ経済&台頭するアジア ⇒欧日との連携・ハイテク戦力・封じ込め
- 4) 歴史と教科書の問題 ブッシュの明治神宮参拝は助太刀だ
・教科書問題 韓国・中国は国定教科書 隣国条項の悔恨 民主主義の原則
政府は教科書の当事者でない いろんな見解や教科書があるのは可 民間の努力
- ・靖国神社≠戦争神社 神道は宗教でない?! →神道指令 靖国神社は墓地でない
「A級戦犯＝悪＝参拝不可」は思考停止 英霊を靖国神社が独占 問題の解決とは？
- 5) 構造改革は成功するか
・構造改革＝リバタリアン政策＝反補助金・福祉＝反「公明党＋自民抵抗勢力＋社民党」
リバタリアン……経済的自由を重視（＝保守主義）&個人の自由を重視（＝リベラル）
- ・日本政府そのものが特殊法人 例）特別会計：予算の原則が適用されない
- 6) 離党・総選挙→新党結成をめざせ
・小泉首相の理想的シナリオ 改革派vs守旧派の対決→小泉降ろし→離党・解散→「小泉公認」による新党結成→第二次小泉政権の誕生 さもなければ、じり貧覚悟

□3□ 21世紀、日本は復活できるか

1) 日本の21世紀戦略 ～小型で活力ある文化国家

- ・「科学技術創造立国」路線 独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
- ・国際分業のなかに活路を見出す 日本市場→世界市場 企業行動の世界標準化

2) 政治の改革 ～意思決定力の強化

- ・国会の機能強化 次点歳費制（議員を半分に） 調査・立法機能の充実
- ・中央省庁の権限縮小・簡素化・規制撤廃 特殊法人の廃止・民営化 職務公募制
- ・地方政府の自立 財源（たとえば消費税）を移管して交付税を廃止 委任事務廃止

3) 企業社会の改革 ～経済体質の強化

- ・戦後社会は、資本主義でなかった！ 配当が低い＝株主不在／累進課税／資産課税
⇒持株会社の復活 ベンチャー企業育成（自由競争、間接金融）
- ・入り口文化、年次別管理からの脱却 インターンシップ／年俸制／転職の自由

4) 教育の改革 ～新しいタイプの日本人形成を

- ・小中学校：学区制の廃止、校長に経営権（含人事権）を、学校理事会の設置
- ・高校：入試廃止、高検（高等学校学力検定試験）の導入、個人カリキュラムの編成
- ・大学：入試廃止、学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金、研究ポスト公開

5) 東アジア国家としての再出発

- ・公民権制度を導入 →在日外国人を日本社会の正規メンバーに →統一コリアに対応
- ・アジア諸国共存のための国際秩序を アメリカのプレゼンスを重視しよう

6) 明瞭な世界戦略とメッセージを

- ・非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化の利点
- ・国際協力の戦略を 教育援助（初等識字教育→人口↓） 在来農法・技術援助
- ・多文化主義（マルチカルチャリズム）の支援を 優秀な人材を吸引

（参考）

中村好寿 2001 『軍事革命（RMA）——＜情報＞が戦争を変える』中公新書
森村 進 2001 『自由はどこまで可能か——リバタリアニズム入門』講談社現代新書
橋爪大三郎 2001 「「首相参拝」は合憲である」『諸君！』33巻10号

民主党・文部
科学部門会議
於：衆院会館
1 第一会議室

奨学金改革が日本を変える

2002.3.6
橋爪大三郎

(東京工業大)

□0□ 講師紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年生まれ。東京大学大学院社会学研究科博士課程修了。社会学者。1989年より東京工業大学に勤務。主な著書に『言語ゲームと社会理論』勁草書房、『はじめての構造主義』講談社現代新書、『世界がわかる宗教社会学入門』筑摩書房、『政治の教室』PHP 新書、『民主主義は最高の政治制度である』現代書館、『天皇の戦争責任』径書房、『この先の日本国へ』勁草書房・近刊など。

□1□ 現状認識

1) 公立学校教育が機能しない

入試中心の進学システム → 受験技術の習得が必要
学習指導要領の一斉授業 → 平均主義的教育サービス

⇒ 学校外教育
(塾・予備校)

2) 教育機会が公正・均等に配分されない

学校外教育はコストが高い → 所得上位の進学率上昇
学校外教育は都市部に集中 → 大都市圏の進学率上昇

⇒ 階層格差の
再生産

3) 社会の活力が失われ閉塞感をうむ

学力重視(必須教科の競争試験) → 個性・才能軽視
階層格差の再生産 → 社会への不信、将来への閉塞感

⇒ 社会的な連
帯の欠如

□2□ 改革案の骨子

1) 前提：厳しく現状を認識するリアリズムに立脚すべき

2) 目標：選択・責任・連帯 個人の主体性と自由を最大限に保証し、責任を求める

3) 改革：小中学校……学区制廃止(学校選択)、校長の学校経営権(予算、人事、教育) 高等学校……入試を廃止(書類選考)、高検(高等学校学力検定試験)を導入 大学……入試を廃止(学費を値上げ)、全員に奨学ローン+奨学金を与える

□3□ 奨学金制度の改革

1) 定義

- ・奨学ローン：民間の銀行が、大学生本人に、市中金利によって貸し付ける長期ローン
- ・奨学金：大学が、大学生本人に、学費の一部または全部を免除したり、生活費を援助したりして、給付する資金(免除：いったん徴収した学費を給付すること)

- ・学費：学生一人あたりの教育にかかる費用 約180万円/年
- ・学資：学費+生活費(約120万円/年) 約300万円/年

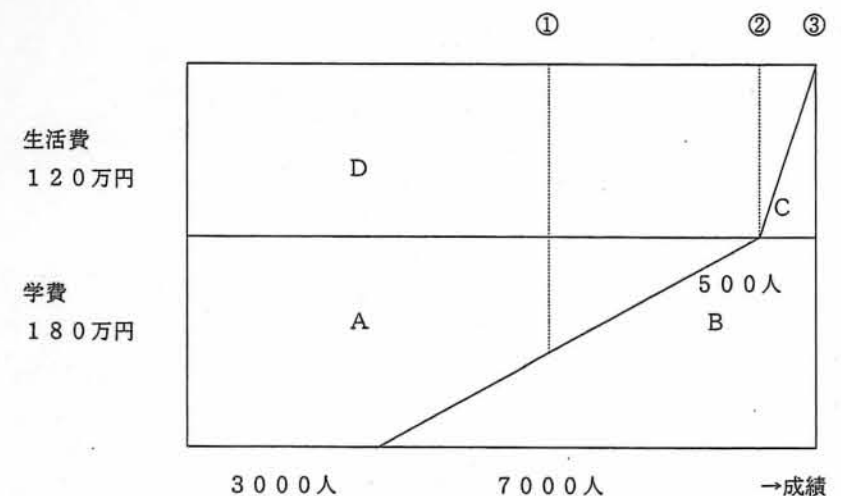
2) 基礎となる数字

- ・大学生数(短大生、大学院生をまるめた概数) 300万人(1~4年生)/年
- ・学資(学費と生活費を含め、一年間の経費) 300万円/年
- ・総経費 300万円×300万人=9兆円

3) 奨学金の考え方(試算例) (51ページ、参考資料1)

- ・前提=学部学生1万人の大学(各学年2500人)の学生全員を、成績順に並べる。
- ・成績が下位3割の学生は奨学金がもらえないが、上位7割の学生は、なんらかの奨学金がもらえる。その試算例(年間の学費を180万円とした場合。下図参照)。

- ①ハーフ・スカラーシップ 学費180万円→90万円(成績3750番/1万人)
- ②フル・スカラーシップ 学費全額免除(成績500番/1万人)
- ③特待生 学費全額免除+生活費120万円給付



大学が設ける奨学金は、学費を再配分するが、それは大学から学生に向けたメッセージである。大学で真剣に学ぶことを奨励し、誰であろうと、専門で有能な学生、将来その分野で活躍するだろう人材を優遇する。

◆大学ごとの奨学金の機能と利点 (52ページ)

- ①どの学生にどれだけの奨学金を与えるかは、大学経営の基本にかかわるので、大学が決めるのが適当である。成績だけではなく、スポーツや社会活動、国籍や特定の専門など、多様な基準があってよい。そこに大学のプリンシプルが表れる。学生にとっても、正常なコスト感覚が刺激され、勉学の強い動機づけが得られる。
- ②条件のよい奨学金を誰にも与えることはできないので、奨学金を得ることは社会的に評価される。条件のよい奨学金は、「優」と違って、大学の都合で乱発できないので、スクリーニングの基準としても信頼できる。
- ③条件がよく評価の高い奨学金は、どの大学にも少しずつあることになるので、教育力のある大学に優秀な学生が少しずつ分散するという、望ましい傾向が生まれる。

□ 参考文献 □

堤清二・橋爪大三郎編著 1999 『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』勁草書房
(社会経済生産性本部・社会政策特別委員会がまとめた同題の報告を収録している)
橋爪大三郎 2000 『幸福のつくりかた』ポット出版……教育改革についての講演を収録

□0□ 講師紹介

橋爪大三郎 (Hashizume Daisaburo)……1948年生。東京工業大学大学院社会理工学研究科
価値システム専攻教授、社会学者。1977年、東京
大学大学院社会学研究科博士課程修了。1989年、東京工業大学工学部助教授。主な著書に
『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『はじめての構造主義』『橋爪大三郎コレ
クション(全3巻)』『世界がわかる宗教社会学入門』『政治の教室』ほか多数。

□1□ 明治維新と日本の官僚機構

- 1) 江戸時代の行政組織 天皇-将軍-大名(三百余藩)-武士-庶民
 - ・京都の朝廷 天皇家+五摂家+公家(世襲)
 - ・江戸の幕府 徳川将軍家+御三家(水戸、紀州……)+大名+旗本
 - ・各地の大名 藩主+家老+武士+足軽+…

★行政組織は家の連合 職務を家が世襲する 家は長子単独相続 異姓養子を認める
- 2) 明治維新と官僚機構の成立
 - ★明治維新の主体: 長州、薩摩ら四藩の若い下級武士(草莽の志士) 薩長連合
→幕府(将軍家)を打倒 →王政復古(天皇を中心とする政府: 太政官-参議……)
→薩長藩閥の形成
 - ★試験制度と学校教育による官僚の養成 藩閥政治の排除が目的
文官 高等学校(第一~第八)→東京大学法学部→高等文官試験→中央官庁
武官 (陸軍幼年学校→) 陸軍士官学校→陸軍大学 海軍兵学校→海軍大学
- 3) 天皇のための官僚機構
 - ★官僚組織の自立性 人事に対する政治家の介入を排除 ヒエラルキーと内部昇進
・軍の自立性 統帥権(軍に対する天皇の命令権)の独立 陸軍と海軍の分裂

□2□ 戦後日本の官僚制度

- 1) 戦後改革と公務員制度
 - ★GHQによる公務員制度改革 陸軍、海軍の廃止 内務省→通産、自治、建設省
 - ★官僚から公務員へ 公務員=civil servant 主権在民→公務員は国民に奉仕
けれども、中央省庁の実態はあまり変わらなかった 上級国家公務員試験
・地方自治改革 県知事: 任命→選挙 地方分権は不完全(地方交付税、委任事務)
- 2) 日本の中央官庁の特徴
 - ★キャリア/ノンキャリアの区別 上級試験(一種試験)合格者→本省採用/その他
 - ★入省年次による昇進 入省→地方→課長補佐→課長→局長→審議官・官房長→次官
昇進のたびに人数が少なくなっていく(内部競争)→天下り(関連業界に再就職)
 - ★縦割り行政と縄張り 保育園~厚生省/幼稚園~文部省 監督官庁と行政指導
新設官庁のポストは他省が支配 環境庁←厚生省 防衛庁←大蔵省、自治省

3) 日本の中央官庁の問題点

- ★大きな権限、少ない収入、長時間勤務 大蔵省~帰宅できない、毎年自殺、接待
- ★政策決定の過程が不透明 審議会(業界・民間有識者・官庁OB) 政治の介入
- ★専門知識の不足 2~3年で異動、仕事はノンキャリア頼り、共同討議に不慣れ
・効率が悪い、モラルハザード、特殊法人、特別会計、規制が多すぎ、…

□3□ 行政制度と公務員制度の改革

- 1) 中曽根首相の行政改革(中曽根行革) 臨時行政調査会(中曽根臨調)~官を排除
★国鉄→分割民営化(JR各社) 赤字の解消 専売公社→JT(日本タバコ産業)
・しかし、郵政や中央省庁については手がつけられなかった。
- 2) 橋本龍太郎首相の行政改革(橋本行革) 中央省庁再編
★大蔵省→財務省、金融庁 建設省、国土庁、運輸省→国土省 通産省→経済産業省
省庁と大臣の数は減ったが、人員や機構・権限はそのまま
- 3) 小泉首相の行政改革 石原伸晃を行革担当大臣に 行政改革断行会議~猪瀬直樹
★特殊法人改革 特殊法人~政府が設立したNGOで税金を投入する事業体~天下り先
・「聖域なき構造改革」~かけ声だけで中身不明 特殊法人改革には抵抗多い
- 4) そのほかの改革
★独立行政法人 国立大学は2004年度から「独立行政法人」 公務員→非公務員

□4□ 日本の行政機構は、根本的な改革が必要である

- 1) 中央省庁の人事・機構改革
 - ・中央省庁の公務員の採用…本省別の採用にしないで一括採用・訓練を 人事院に提案
 - ・昇進…省内で昇進させるのをやめ、職務公募制に 他省庁、企業、大学に開放
 - ・退職…民間企業への就職制限をなくし、自由な異動を
- 2) 特殊法人→原則廃止か民営化
 - ・日本道路公団、都市住宅整備公団、日本育英会、日本学術振興会、アジア経済研究所、
日本貿易振興会(JETRO)、…
- 3) ★特別会計→廃止
 - ・一般会計(正規の予算)と違って、特別会計は省庁の裁量が大きい
昭和37年ごろ 自動車税→道路整備特別会計 が最初 国立学校特別会計、…
- 4) ★財政投融资→廃止
 - ・郵便貯金を原資とする 一般会計の予算の半分以上→公共事業の主役→浪費
- 5) 公的年金(厚生年金、国民年金)の一体化と縮小
 - ・無駄が多い

★リバタリアン Libertarian

国家権力(税)に反対
税をかける場合には、最小に。そして納税者に説明し同意をうる。
民間ができることは、政府はやらない。民間のやることに、政府は干渉しない。
規制緩和、構造改革。~歳出削減、市場の活力。

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『性愛論』（岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』（以上共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版）、『政治の教室』（PHP新書）、『その先の日本国へ』（近刊・勁草書房）ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ 国家と戦争の歴史をふり返る

1) 国家と戦争

- ・国家：税金を集めて事業を行なう団体 事業～軍事、外交、公共サービス
- ・戦争：国家間の武力による紛争解決 軍人は任務として戦争（破壊と殺傷）に従事 軍隊は、武器を携行/指揮系統あり/標識あり 近代軍は、戦時法規に従う
- ・戦争と外交とは連続的である 戦争は新しい現実（正統性）を作り出す

2) 戦争のメカニズム 戦争には戦争目的がある

- ・政略→戦略→戦術 クラゲッツ『戦争論』…1)敵軍殲滅 2)領土占領 3)意志をくじく
- ・補給はなぜ大切か ∴傭兵 会戦平面～横隊～傭兵（自己武装でない）～補給 軍政/軍令の分離 会戦序列の決定 参謀本部の成立 職業軍人（勲章→転職）

3) 近代の戦争

- ・歩兵 師団（作戦単位）～連隊～大隊（横列戦闘単位）～中隊～小隊～班 歩兵は、1) 敵の殲滅、2) 領土の占領、3) 民間人の保護、を行なう
- ・ナポレオンの戦術改革 徴兵（戦闘意欲向上、兵力向上）→消耗戦・殲滅戦へ 横列→縦列 すみやかな移動と戦力の集中 十字砲火
- ・持久戦（日露戦争→第一次大戦） 機関銃（防御に適する）+縦深陣地 →敵正面の突破・迂回が困難に →戦車・毒ガス・飛行機

4) 総力戦：戦争目的を第一に国家・社会全体が組織される態勢 前線/後方の別なし

- ・大艦巨砲主義（アウトレンジ戦法）→機動部隊（航空戦力の優位）シーレーン防御
- ・石原莞爾の予言～最終兵器の登場は戦争を不可能にする →核兵器と冷戦 cf 総力戦研究所……昭和15年に内閣府に設けられ、日米戦必敗を予測 ←猪瀬1983

5) 冷戦は、なぜ安定していたか

- ・2国の対立（≒二体問題） 相互確証破壊（防衛ミサイル禁止＝ABM条約）
- ・核の傘（恐怖の均衡）～日米安保体制（日本の個別自衛権+アメリカの集団自衛権） 通常戦力による侵攻は不可能に →ゲリラ戦（ベトナム戦争、アフガン戦争）

□2□ 21世紀の安全保障

1) MD（ミサイル・ディフェンス）構想

- ・SDI（スターウォーズ計画）：レーガンの軍拡→ゴルバチョフのペレストロイカ
- ・NMD（アメリカ本土を核攻撃から防衛）
- ・TMD（戦域〔日本や台湾〕を核攻撃から防衛） 前方展開の必要からMDに合体

- 2) 日米安保の再定義、日米ガイドライン改定、テロ特措法 ⇒日米「集団安全保障」へ
・新ガイドライン「周辺事態」：そのまま放置すると日本の安全を脅かすおそれのある北朝鮮を想定→中国も 周辺地域での事態（地理的概念ではない）
- 3) 9・11「同時多発テロ」事件以後の国際秩序
・軍事革命（RMA）……消耗戦から麻痺戦へ 敵主力を破壊せず無能化～コンピュータ制御の弱点～同時多発的に精密・適時の攻撃～前線/後方、軍事/民間の差異消滅
・テロ&テロ支援国家 vs 主権国家連合 テロに対して戦争で対抗
・テロをなぜ憎むのか 日本人は殺さない/殺すの違いのみ重視（生命大切論）。キリスト教文明は、過失/正当防衛/戦争・処刑/殺人/虐殺&テロ、の順に区別より害悪の大きい殺人を排除するため、害悪の小さい殺人を犯すのは正義と考える戦後日本人は、戦争を最大の悪と考えてきたが、その想定は成り立たないのでは？
- 4) 21世紀の安全保障は、日米安保体制の枠をはみ出している
・憲法改正（自衛隊を軍にする）自衛隊～法的には警察 軍～禁止された以外は可
・安全保障戦略 アメリカのプレゼンスを長引かせる+中国を市場経済に巻き込む

□3□ 戦争をめぐる倫理の問題

- 1) 戦争の死者の問題：戦前～戦後の連続性 ←『敗戦後論』『天皇の戦争責任』
・加藤典洋の提起 300万の死者/2000万の死者 まず 300万を哀悼すべき 大東亜戦争の死者を、なぜ、どのように哀悼するか 祀る主体～国民
・戦争を支えたことは間違っていたのか？ →いない ∴公民としての義務＝兵役
- 2) 靖国神社
・東京招魂社（明2）→靖国神社：国事殉難者（維新の犠牲者）の霊を恒久的に合祀 陸軍・海軍・内務三省の所管する国家機関 ←政府見解：神道は宗教にあらず
・GHQ指令により宗教法人（国と無関係）に ⇒国が犠牲者に哀悼する方法なし
- 3) 東京裁判
・法源…戦時国際法（B、C級）+人類に対する罪、平和に対する罪（A級）：事後法
・南京大虐殺（atrocitiy）の問題性 立証の方法 戦場で民間人保護義務を怠る
・サンフランシスコ平和条約の裁判承認義務 vs 東京裁判の不正への異議申し立て
- 4) PKO法
・自衛官の武器携行を制限 →人権侵害、国際常識に逸脱
・人びとを守るために危険に身をさらして任務につくのは、倫理的な行為ではないのか

□4□ 戦争・国家・倫理

- 1) 公共性：人びとが対等に交流する空間の属性 言論/契約/法/宗教/…
・国家は公共性を代表する（たとえば税をとる）が、公共性の基盤は個人にある
・個々人は、自分の存立の基盤である公共性を、応分に守る責務がある ⇒倫理
- 2) 戦争：個々人が公共性のために自分を危険にさらす究極のかたち cf警察・消防
・戦争は国際社会のルール 正規軍は他の団体が真似できないほどの装備をもつべき
・リアリズム……軍事バランスは、国際秩序の不可欠の一部 安全保障への配慮
・個人～社会～国家～戦争の関係を見通し、理解し、適切に行うこと＝倫理（？）

（参考）

猪瀬直樹 1983 『昭和16年夏の敗戦』世界文化社→文春文庫→2002小学館著作集 8
加藤典洋 1997 『敗戦後論』講談社
加藤典洋・橋爪大三郎・竹田青嗣 2001 『天皇の戦争責任』径書房
中村好寿 2001 『軍事革命（RMA）——情報＞が戦争を変える』中公新書
橋爪大三郎 2001 「『首相参拝』は合憲である」『諸君！』33巻10号 →2002勁草書房
森村 進 2001 『自由はどこまで可能か——リバタリアニズム入門』講談社現代新書

ワンワン倶楽部セミナー ここにいるということ／働くということ 2002. 4. 25
 於：株式会社ツカサ : 橋爪大三郎の“会社”学入門 橋爪大三郎
 五反田本社ビル

□0□ 講師自己紹介

はじめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいの』『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『性愛論』（岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（以上共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版）、『政治の教室』（PHP新書）、『寛容のレシピ』（NTT出版）、『その先の日本国へ』（近刊・勁草書房）ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ ひとはなぜここにいるのか

- 1) ハイデガー（ドイツの哲学者）……現存在（実存）／定在（モノ）
 - ・人間以外のモノは、人間のためにある（理由を問える） 人間は理由なく存在する
 - その理由を尋ねても答えはない（第一次大戦のニヒリズム） →サルトルの実存主義
- 2) 知性をもつ多細胞生物であることの宿命 ←『世界がわかる宗教社会学入門』
 - ・個体と類の矛盾（ヘーゲル） 知性は個体の活動／生命は類のプロセス→個体の死
 - 個体が築いた意味や価値（世界）も、個体の死とともに解体してしまう
- 3) 個体を超えた価値を、ひとはなぜ信じるか
 - ・自分が存在する理由を知ろうと思えば、個体を超えた価値（大事なこと）や意味（そのわけ）を信じる必要がある

□2□ 会社はなぜあるのか

- 1) マルクス……生産手段（資本）が巨大になると、個人を超えた組織（会社）を形成
 - ・単純商品生産社会：生産手段を各自が所有（≒職人） →価格は労働価値に一致
 - ・資本主義社会：生産手段を資本家が所有＋賃労働者 →価格は価値から分離
 - 地主（土地を所有）～地代 賃労働者（労働力を所有）～賃金
 - ・資本主義の発展（生産力の増大）⇒資本の有機構成の変化⇒利潤率の低下⇒破綻
- 2) 法人擬制説 vs 法人実在説
 - ・法人は実在しない ∴ 1) 刑事責任を追及できない、2) 自然人の行動に還元できる
 - ・法人は実在する ∴ 1) 契約の主体、2) 納税する、3) 社会的な実在である
- 3) 会社のリスク減少効果
 - ・フリーランス……帰属先なし、最低所得の保障なし、リスクの分だけ期待利得は上昇
 - ・サラリーマン……会社に帰属、確実に給与をもらえる、給与は期待利得を下回る
 - 独立した場合の所得>サラリーマンの所得 ⇒ だが独立した場合の所得の分散は大
 - ⇒ 大部分の人びとにとってサラリーマン（会社に所属）のほうが得

□3□ ひとはなぜ起業家をめざすのか

- 1) 安定した収入を捨ててまで、独立して事業を行なうのはなぜか
 - ・家業がある
 - ・資本がある
 - ・サラリーマンは向かない
 - ・自分なら成功できると信じている
 - ・所得は低くても、独立したほうが満足がえられる
- 2) 起業家として成功するための条件とは？
 - ・起業は簡単。投資を回収する（利潤をあげる）ことのほうがずっとむずかしい
 - ・これまでに存在しない業態で、人びとが喜んで対価を支払う事業を開発する
 - ・これまでに存在した業態で、徹底してコストを削減する方法を開発する
 - ・これまでに存在した業態で、徹底して品質を高める方法を開発する
 - ・一般均衡理論の基本定理：すべての産業において長期均衡利潤はゼロである
 ⇒ 大きな利潤をあげたければ、1) 創業者利潤、2) 独占または寡占
- 3) 起業家はどういうネットワークを築くべきなのか
 - ・起業家（アイデアはあるが資金がない）＋資本金家（資金はあるがアイデアがない）
 - 起業家同士が知り合っても、相乗効果は生まれない 資本金家同士も同じ
 - ・資金家に対する情報提供、初期投資の優遇（ハイリスク・ハイリターン）が大切
 - ・安定した既存企業と、新興企業との棲み分け

□4□ ふたたび、ひとはなぜここにいるのか

- 1) ひとは、たった一人では完結できない
 - ・エゴイストも、他者の承認を求めている 例）貨幣、名誉、権力、権威、…
 - ・自分がいま・ここにいることの充実、他者たちも同様であることとの反響しあう
 - ・自分が利益をえたいのなら、まず、どのように他者に利益を与えられるかを考えよ
- 2) いま・ここを包み込む大きな文脈を見いだすこと
 - ・ひとは、生まれる時代や自分の属性を選び取ることはできない 分断と孤立
 - ・市場は、面識関係を超えた分業（＝協業）のネットワークを地球大に拡大できる
 - ・市場のなかで自分の場所をみつけること～このネットワークに積極的に関わること
- 3) 市場経済がすべてでないということをしること
 - ・市場の円滑な運行は、さまざまな前提にもとづく 法の支配／家族／教育／科学…
 - ・市場は自らを支える公共空間に対して贈与を行なう 税（消極的）／寄付（積極的）
 - ・所属する企業や業界の文化によって行動するのでなく、自分の頭で考えて行動する

東京都高等学校公民科
「倫理」「現代社会」研究会
於・都立九段高校

これからの
公民科教育を考える

2002.5.24
橋爪大三郎

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『性愛論』（岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（以上共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版）、『政治の教室』（PHP新書）、『寛容のレシピ』（解説、NTT出版）、『その先の日本国へ』（勁草書房）、ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 変容する社会の社会科（学）

←都倫研講演 1993.10.7

1) 社会科（学）とは……“社会”についての“科学的”研究

対象～社会：人間の行為（価値判断）の集積 意味・価値・ルール

方法～科学：すべての人びとが承認する根拠をそなえる 事実+論理

⇒社会科（学）は、知識ではなくて実践（プラクシス）＝市民としての行動様式の習得

2) 歴史……過去の社会の事実関係とその意味 →戦争責任

地理……現在の社会の事実関係とその意味

政治経済……現在の社会の制度とその理論（≡政治学、経済学）

現代社会……？ ≡社会学？

倫理社会……？ ≡哲学？ これらの科目を知識（暗記）に還元する不断の傾向

3) 重要で現実的なテーマほど、教えるにくい

- ・戦争責任 ～戦後世代の「反省」「追及」＝当事者意識の欠如＝無責任
- ・憲法 ～国家と人民の統治契約 “憲法を尊重すること＝護憲”ではない
- ・民主主義 ～みんな仲良く（全員一致のムラ原理）≠異質な人びとの共存（多数決）
- ・差別 ～「差別してはいけない」と教えると、かえって差別が再生産される
- ・国連 ～United Nations＝連合軍がかたちを変えた軍事同盟 集団的自衛権を肯定

□2□ 「課題追及学習」にこう取り組む

1) ケース・メソッドの効用 具体的な実例を通し、市民としての判断を支援する

Q憲法を否定し、政府の転覆をはかる陰謀集団が集まっている、どうしたらいい？

Qあなたが結婚し子ができた。親の一方は被差別部落出身。将来その出生を子に語る？

Q『ちびくろさんぼ』が絶版になることに、あなたは賛成、反対？

2) 生命と地球環境 ←新田・橋爪編『科学技術は地球を救えるか』富士通ブックス

- ・ショッキングな事実を紹介 動物蛋白の構成比 ウシ／ヒト／…
- ・地球にやさしい⇒人間に厳しい 南北格差 環境倫理 ×気休めエコロジー
- 3) 家族と地域社会 ←堤・橋爪編『選択・責任・連帯の教育改革』
 - ・もしもあなたの町を除いて、日本のほかの部分が消滅してしまったら？
 - ・あなたが親だったら、子供をどう育てる？ ・擬似家族をつくって役割演技
- 4) 多文化主義とは何か ←アル・グラスビー『寛容のレシピ』
 - ・「世界の様々な文化の理解」→例えば、食物規制、安息日（暦）、服装、言語、習慣
 - ・“いろいろな文化があるという知識”ではなく、それを当然としてつきあうマナー

□3□ 価値・意思決定・言語 ——価値システム専攻の狙い——

1) 価値システム専攻 Department of Value and Decision Science=VALDES 1996-

- ・社会理工学研究科 価値システム専攻+人間行動システム+経営工学+社会工学
- ・価値システム専攻～新しいタイプのリーダーを育成 哲学×数学 文理融合

2) 意思決定とは何か Decision Making

- ・決める前には決まっていない～ジャンプ 一回ごとの実践 論理・数理の限界
- ・日常言語が、合意形成のツール 意思決定の前提を明示 説得／批判／論争

3) 言葉を鍛える／自分を鍛える

- ・言葉を、正確に、厳密に、豊かに使う技能 考えるように語る 語る通りに行動
- ・自分の言葉を語る 感情 価値 他人の批判にさらされてもゆるがない
- ・（公的な場での）意思決定を積み重ねることで、市民としての行動様式が育っていく

□4□ これからの「倫理」を考える ←竹田・橋爪『自分を活かす思想／社会を…』

1) 自由とルール ルールがなければ、自由はない（ルールと自由は背反しない）

- ・近代主義、マルクス主義は、ルールを自由の制約と考えた ←→言語論的転回
- ・存在の明確なルールのみに従う ～民主主義（市民みずからの立法）⇒自由の極大

2) ルールのミニマリズム：人びとの多様な自由や個性を受け入れる最小限のルール

- ・法の支配のなかみ ルールが誰にも適用される ルールを変更できる
- ・ルールは権力によって担保される～権力があるのは当然 cf権力もルールにもとづく

3) 公共性の再構築

- ・ルールに従って人びとが生活している社会のあり方そのものが、公共的 官や国が公共性を独占してはいけない それは公衆（納税者）に支えられている
- ・自分の自由と幸せが人びとに支えられ、人びとも逆に支えられているという自覚 ⇒公共感覚の本質 ⇒ここから、そのほかの制度（国家を含む）が始まる
- ・倫理教育は、知識や徳目ではなく、人びとが生きることの相互関係を体得すること

その先の日本国へ

2002. 6. 18
橋爪大三郎

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『性愛論』（岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『こんなに困った北朝鮮』（メタローク）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（以上共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版）、『政治の教室』（PHP新書）、『寛容のレシビ』（解説、NTT出版）、『その先の日本国へ』（勁草書房）、ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 政治の教室

- 1) 政治とは何か 政治：ある範囲の人びとを拘束することがらを決定すること
例) 橋をかける 税金の額を決める 政治は選択である⇒現実をつくり出す
・ミクロの政治～家族や小集団の決定⇔マクロの政治～社会全体に関わる決定
- 2) 政治の正統性……どのように決定すれば正しい決め方か、人びとが納得していること
決め方～王が決めたから、多数決だから、議会で決めたから、……
・近代民主主義：人びとが、自分たちで法を制定し、それに従う制度～社会契約説
人びとは、自立した自由な個人である⇒拘束されるとすれば、それは自分の意思
- 3) 公共性とは何か 公共性を政府が独占すべきだと考えるのは間違い
・マクロの政治……税金を使って政府が公的サービスを行なうこと
・公共性……人びとが不特定の他者と共存する行為の総体 例) 契約、交通、言論
ルールに従って人びとが生きている社会のあり方そのものが、公共的
- 4) 政治を面白くするアイデア
・リバタリアニズム 経済的自由を尊重（≒保守主義）&個人の自由尊重（≒リバリズム）
リバタリアニズムは、課税に反対し、政府をミニマムにする（反権力）
・草の根民主主義 有権者の出資⇒小選挙区の予備選⇒二大政党制⇒政権交代
自分の人生は自分で決める 選択と自己責任

□2□ その先の日本国へ

- 1) Wカップ・ハイ ポスト戦後を象徴 ナショナリズムは復権したか？
・野球からサッカーへ 野球～アメリカのスポーツ サッカーは素朴で祝祭的
・グローバリゼーション 人の移動（選手、サポーター） 情報の移動（中継）
・都市の祝祭 サッカーは擬似戦争→国民的一体感→日韓は互いのナショナリズムを許容

- 2) 積み残した戦後の宿題 重要で現実的なテーマほど、思考停止に陥る
・戦争責任 ～戦後世代の「反省」「追及」=当事者意識の欠如=無責任
・憲法 ～国家と人民の統治契約 “憲法を尊重すること=護憲”ではない
・民主主義 ～みんな仲良く（全員一致のムラ原理）≠異質な人びとの共存（多数決）
・差別 ～「差別してはいけない」と教えると、かえって差別が再生産される
・国連 ～United Nations=連合軍がかたちを変えた軍事同盟 集団的自衛権を肯定
- 3) 9. 11以後の日本
・戦後日本のツインタワー 日本国憲法（非武装）+日米安保条約（核の傘）
→崩壊 ∴国際テロリスト～非正規軍～予測不能～正規軍では対応が困難
・テロ特別措置法 アメリカの反撃（個別自衛権の発動）を支援（=集団的自衛権！）
集団的自衛権を行使しないという政府方針は、すでに修正されている
・福田官房長官による非核三原則の見直し発言 政府で検討が進んでいる証拠
- 4) その先の日本国へ
・政治の再生 無党派（無関心）をやめ、政党に参加しよう 読書会～ディスカッション
・経済の再生 無駄な公共事業をやめる 資源を節約 勤勉と起業を奨励
・教育の再生 入試をなくす→大学の学費値上げ・学生本人負担→奨学金の充実
・日本の再生 科学技術創新型国家戦略 アメリカに代わるライフスタイルの構築

□3□ 価値・意思決定・言語 ——価値システム専攻の狙い——

- 1) 価値システム専攻 Department of Value and Decision Science=VALDES 1996-
・社会理工学研究科 価値システム専攻+人間行動システム+経営工学+社会工学
・価値システム専攻～新しいタイプのリーダーを育成 哲学×数学 文理融合
- 2) 意思決定とは何か Decision Making
・決める前には決まっていない～ジャンプ 一回ごとの実践 論理・数理の限界
・日常言語が、合意形成のツール 意思決定の前提を明示 説得／批判／論争
- 3) 言葉を鍛える／自分を鍛える
・言葉を、正確に、厳密に、豊かに使う技能 考えるように語る 語る通りに行動
・自分の言葉を語る 感情 価値 他人の批判にさらされてもゆるがない
・（公的な場での）意思決定を積み重ねることで、市民としての行動様式が育っていく

（おまけ）

中国短期留学の誘い（費用を自弁すれば、誰でも参加できます）

- ・日程 9月5日～9月25日 前半：天津社会科学院で講義→後半：中国国内を旅行
- ・費用 18万円程度 今年は東工大生ら36名が参加の予定
- ・連絡先 03-5734-2667 東工大・橋爪研究室 なるべく6月一杯に連絡して下さい

間共同体研究会 竹田青嗣『言語的思考へ』2001年12月刊、径書房 2002.6.29
 於：明治学院大 ・第7章 「正義」のパラドクスと否定神学 橋爪大三郎
 ・終章 現代的「超越項」
 ・キックとパンチ

第7章 「正義」のパラドクスと否定神学

1 否定神学——脱構築を超えて

* 東浩紀『存在論的、郵便的』の検討

画期性……ヨーロッパ思想の輸入、紹介でなく、《ひとつの世代の思想的な自己表現という性格を押し出しつつ登場している》(271)

Cf 浅田彰、中沢新一、柄谷行人、蓮實重彦〜《「決定不能性」「反復可能性」「自己言及性」「物語」「多義性」「他者」「倫理」といったポストモダン思想による輸入概念のまわりをめぐるものになっている。》(272)

東浩紀のデリダ論のポイント

初期：形而上学的解体の仕事のうちに、「否定神学」的要素

後期：「否定神学」を超え出る可能性を探究

* 脱構築の方法が「否定神学」的要素をはらむのは……

ポーロ（批判）ラカン（批判）デリダ（相対化）バーバラ・ジョンソン（無自覚脱構築）の脱構築の……（参照の無限構造：「否定神学」的なイデオロギー言説）《いまやそれは…どのような概念、観念、主張、制度…をも批判できる、いわば「普遍的反証」の技術となっている。》《「言語の謎」を言説批判の特権的武器とすることで必然的に生じる批判言説それ自体の形而上学化の正確な指摘である》(274)

* デリダの新しい戦略：《伝達や了解の本質的な不確実性、言い換えれば「誤配」の可能性としての「郵便制度」》(275)

cf 《形而上学的な「根拠」を問いつめる思考は、その問いつめがラディカルであるほど、最後に決して言葉では語りえず（規定されえず）、しかし、それなしには世界認識の構築性が成り立たない何かが存在する」という思考へとゆきつく。》(278)

例）ハイデガーの「存在」、レヴィナスの「他者」、ラカンの「対象a」

* 東浩紀による、現代哲学の流れ(280)

- (1) 論理主義的段階 ヘーゲル、フッサール、ソシュールの形式規定主義的真理主義
- (2) 脱構築的段階 ゲーデル的、ラカンの、ハイデガー的脱構築→否定神学性をはらむ
- (3) 郵便的、誤配的段階 デリダ的「郵便」「誤配」の概念 ～不可能なもの多数性

2 正義のパラドクス——「法の力」

* デリダの「正義をなすことのパラドクス」～「正義」それ自体の脱構築「不可能性」

～ヴィトゲンシュタインの「規則についてのパラドクス」(第六章)

デリダによる正義の根拠づけの核心(288)

①「法」—「国家」を「脱構築可能」、絶対的な正当性の根拠をもたないものと論証

②「正義」を「脱構築不可能」、「無限な」根拠をもつものと論証

《「正義」自身は脱構築不可能であるにもかかわらず、一方でわれわれが「正義」を規定するもの（＝「法」）を脱構築しうるのは、われわれがある無限な「正義の理念」をもつから》(287)

* 《このふたつの論証（①、②）の内実は、じつは共に、われわれが何度も見てきた懐疑的方法論による「絶対的な根拠づけの不可能性」の論証にほかならない。……デリダは、前者についてはこれを「法」が正当化されないことの根拠とし、後者については「正義」（あるいはそれを支えるものとしての「他者」の概念）が規則的なものに還元しないこと、すなわち「無限な根拠」をもつことの証左としている》(289)

《このような形式論理の使用は、問題を知的パズルとして示すだけで……問題の本質について思考し、かつこれを検証することができない。》(291)

3 倫理の現象学——他者の声／自己の声

(1) 倫理の実存論的本質

* 《人間の倫理的な行為や決断は、実存的な「自由」を根拠とするものであって因果論的な規定のみによっては捉えることができない、という問題》(293) →デリダ～ヴィトゲンシュタイン～ベルクソン～ハイデガー

《このような倫理的状況を形式論理的に表現するかぎりでは、それは＜正義の行為は、規制されながらも同時に規則なしにあるのでなければならない＞というこたちをとる》

* 実存論的な考察……《「倫理」は、まずあくまで人間の実存的な存在配慮（自己配慮）に、またその内的な自己確定ということにその本質的な根拠をもっている。しかし、……必ず「間主観的」領域へとすなわちその「外部」へと展開されざるをえない》(298)

例）カントの「最高善」 《ニーチェが正確に見抜いていたようにカントの「最高善」とは、まさしく脱聖化された「至上存在」なのである。》(299) 至上存在＝神、王

例）レヴィナスの「他者」→デリダ 《「他者」こそは「正義」の根拠であるという表象は、「最高善」をその根拠とする考えよりはるかに自然で受け入れられやすい》(300)、しかし《「他者」の理念は、……普遍的な「正義」の根拠理念となりえない。……「共同体」の論理を克服できない……。……各人は、あらゆる他者を等しく愛し尊重すべき内的理由、内的原理をもっていない。》(303) ⇒《ある聖なる絶対的な存在（真理としての唯一神、至上存在）》の創設へ

* 《内的な存在配慮における自己の「本来性」（ほんとう）選択の「確信」は、いくつかの規準がせめぎあう葛藤のなかからつかみとられる……共同体の一般的道徳規範、自己の内的規範（自己理想）……傾向的欲求意志（快への欲求）》(304) ヘーゲルの「良心」「自己確信」＝「××を正しいと信じる」→「他の信念」と対立

* 《倫理的「信念対立」が不可避で本質的であるということ、倫理の内的自己確信が必ずこの対立に直面してそれを克服しようとする本性をもつことに、倫理の普遍性の根拠がある》(306) 《倫理的な自由と自己確信についての絶えざる「信念対立」が存在すること、そして各々の「信念」がその内的な自己確信についての本質的な自覚をもっているということこそが普遍的な布置なのである。》(307)

倫理の根拠～ ×外部的な絶対的理想理念 ×外部的で絶対的な「他者の声」

(2) 「正義」の社会的概念について

* 《国家や宗教や法は歴史的に規定されたものにすぎず、絶対的な正当性の根拠をもたない、といった相対化と非正当化の批判は、直観的な自然倫理にのみ基礎を置く、したがってまたいわば誰でもが可能な「一般批判表象」にほかならず、本質的な構想をもつ批判思想としての資格をもたない》(310)

《デリダの提出している「他者」の概念はその課題を果たしているというより、むしろ思想的にあきらかな後退、ニーチェの言う典型的な思想の反動形態を示している》(311)

- * 《市民社会理念に対するほとんどの批判者たちは、資本主義の現状と市民社会の原理を混同してこれを相対化しているにすぎず、自らは「共同体」の原理を克服する「政治権力」の正当性の理念を提出しえていない》(313)

《人々の自由と対等を実現するための「権力の正当性の原理」を明確にすることこそ本質的な問題なのである》(315)

- ・ 《われわれの社会における「政治統治」の「正当性」は、一般的には、それが「合法的であること」に根拠づけられると言う以外にはない。》(316)

終章 現代的「超越項」

1 「語りえないもの」の複数性……ギュゲスの批判

- * 《「語りえないもの」の“複数化”という概念……は、それがたとえ一切を相対化する根拠であるとしても、そのような根拠性一般を作り出すこと自体の禁止の要請、ということをしている。》(322)
- * 《繰り返し言えば、懐疑論的な分析的形式論理は、一切のものの根拠（正当性）を批判し、相対化し、無効化するが、必然的に自らの「原理」を提示することはできなくなる。したがってそれは、自分からは他者を見る（批判できる）が他者からは決して見られない（批判されない）、いわばギュゲスの性格をもつ……。そのためにそれは類型的にふたつの思想的方向性をとることになる。ひとつは思想の根拠を「物語」化すること。もうひとつは根拠を論理的に根拠づけられないために思想的な「ジャンプ」によってこれを「超越化」することである。》(324)

2 現代的「超越項」について……無根拠へのジャンプ

- * 《ポストモダン思想は自明化した制度性やイデオロギーを根本的に顛倒するために、懐疑論的相対主義という戦略を選んだ。それは「あらゆるものを批判しうる方法としての脱構築」という基本性格をもつ。しかし、一切のものの無根拠化は、とうぜん無根拠化することの根拠自体の相対化にまでゆきつく。そこでポストモダン思想は、一切のものを批判する場所を確保しておき、その上でこれを“無根拠化”しておかなくてはならない。「語りえないもの」という領域あるいはまたその複数化は、そのような動機によっていっそう切実で不可欠なものとなる。》(327)
- * 《いまや、二十世紀的思想の役割は終焉しつつある。われわれは、もう一度、哲学の本質的思考の原理を再構築し直さなくてはならない。》(330)

橋爪による考察

●一般言語表象

《このような「発話主体」を抜き取られた、いわば“痕跡”としての言語を、わたしは、「一般言語表象」と呼ぶことにする。》(184)

《デリダやヴィトゲンシュタインを含め、現代の言語理論家たちが見出す「言語」の多義性の不可避性は、本質的に信憑構造として存在する「言語」を、その生きた関係構造から切り離して単なる言語痕跡として扱うことに由来する。彼らがこのとき扱い分析しているのは、正当な意味での「言語」ではなく、言語の痕跡にすぎぬもの、あるいはその一般的表象でしかないもの、つまり「一般言語表象」にすぎないのである。》(185)

●現象学による言語意味論

《現象学による言語意味論の第一の要諦は、言語の「意味」の了解は本質的に発話主体の「意」についての了解確信の成立（の度合い）に依存する、という点にある。》(185)

《デリダは、フッサールの現象学的言語理論を「意識」と「表現」の絶対的な結びつきを確保する「音声中心主義」として批判し、……この「根源性」の理論を、その背後に超越的な「意味」を持たない「差延の記号論」（グラマトロジー）を対置することで乗り越えようとする。……

これに対して、現象学的言語理論は、言語行為の本質を「発話主体－言語表現－受話主体」という三項間の信憑構造として措定する。この観点からは、デリダ的な「差延」の記号論は、「一般言語表象」にすぎないものを扱っていることになる。》(259)

●考察

1) 『言語的思考へ』でのべられていることの骨格は、以上の二点である。

2) 竹田が「三項間の信憑構造」、すなわち「発話主体－言語表現－受話主体」を取り出したことは、恣意的である。なぜならば、言語は、
……一言語表現－主体－言語表現－主体－言語表現……
と継起するようなものであり、それを「主体－言語－主体」と切り取ることは無条件に正当化されないからである。

参考) $1-1+1-1+1-1+\dots$ は、切り取り方によって、 $=0$ とも $=1$ とも解釈しうるが、恣意的である。

3) 竹田が「三項間の信憑構造」、すなわち「発話主体－言語表現－受話主体」を取り出したことは、現象学的な前提にもとづく「信念補強」的断定にみえる。

《「意味」はある関係性の意識として生起し、したがってまさしくわれわれの「意識」に生じていることがらの共通の普遍性として捉えられなくてはならない。》(124)

4) 言語（の意味）は、意識にとらえられる。意識にとらえられない言語（の意味）は、存在しないも同然である。けれども、だからと言って、言語のすべてが意識にとらえられ、露呈していると考えすることはできない。それは、ルール（の規則性）のすべてが意識にとらえられ、露呈していると考えられないのと同じである。

5) 言語（の意味）や、ルール（の規則性）を、信憑構造によって下支えすることは、必要でもなければ可能でもない。

参考) 「ルールに従うことと、ルールに従っていると信じていることとは異なる」
～ヴィトゲンシュタイン

東京財団第26回 アジア太平洋南北連携シリーズ 2002.7.16
 虎ノ門DOJO 未来像の凝縮か オーストラリア 橋爪大三郎
 藤森 黎子

□参考文献□

アル・グラスビー著、藤森黎子訳、橋爪大三郎解説『寛容のレシピ——オーストラリア風多文化主義を召しあがれ』（NTT出版、2002）（Grasby, Al 1984 The Tyranny of Prejudice, Australian Educa Press, Melbourne）

□講師紹介□

はしづめ・だいさぶろう……1948年生まれ。東京工業大学大学院社会理工学研究科教授。社会学者。著書に『その先の日本国へ』（勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）など。
 ふじもり・れいこ……1946年生まれ。ビジネス翻訳、通訳に従事。シドニー在住。

★橋爪の講演

□1□ 多文化主義とはなにか

- 1) 多文化主義 multiculturalism : 西欧文化中心主義、自民族中心主義 ethnocentrism に反対し、多様な文化を対等・平等に認めようというポストモダン価値相対主義的な潮流と、理解される場合が多い。（文化左翼のスローガン）
- 2) 私はもっと現実的に、人類の多民族共同体が、互いを尊重しつつ多様に平和に生きる技術（価値、思想、行動様式）のことだと考えている。

□2□ オーストラリアと多文化主義

- 1) オーストラリアは1970年代、労働党ホイットラム政権のもと、白豪主義から多文化主義に転換をはかった。→その中心人物が、アル・グラスビー移民大臣。
- 2) 移民国家オーストラリアは、イギリス植民地から自立をはかるとき、自らの実態（多文化状態）を肯定し、アイデンティティとするほかなかった。cfアメリカ
- 3) オーストラリア多文化主義とは
 コミュニティー関係 ← コミュニティー：ある文化を担う人びとの集団
 ルール・言論・英語・民主主義・法律・ユーモア・……

□3□ 日本はオーストラリアの多文化主義から何を学ぶ

- 1) 個々人が自分らしく生きる自由 多様性は、社会を活性化する
- 2) 英語（標準）以外に、コミュニティは固有性（歴史・言語・文化）を保てよう
- 3) 画一・同化の社会から、多様性・寛容の社会へ 他者が自分と同じと期待しない

□4□ 差別教育が差別をひどくする

- 1) 「差別はやめましょう」→ 差別される人びとは見えない（いないのと同じ）
 → 差別するマジョリティ／差別されるマイノリティ
- 2) 日本の差別教育は、いわれない差別が存在することが差別を再生産するメカニズムに對抗できない
- 3) 「差別されないようにしましょう」→ 誰でも差別されうる
 → 差別されても自分を見失わない、立ち上がる

□5□ 日本を作りかえる提案

- 1) 移民政策 国外の人びとを計画的に受け入れる戦略を考えよう
- 2) 市民権、永住権の制度 国籍を取得しなくても、日本社会の正式のメンバーとして外国人が日本で暮らすことができるような制度を
- 3) 外国人に住みやすい魅力ある国は、日本人にとっても住みやすい魅力ある国
 自由（職業選択の自由、居住地の自由）を拡大すれば、人生が拡大する

★藤森の報告

（アル・グラスビー氏とオーストラリアの多文化主義について）

～memo～

2002.5-(15)

(学) 鉄鋼学園

人材開発センター

管理者セミナー

日本の明日を考える

~~~~~

2002.8.29

於: NKK経営研修所

橋爪大三郎

(東京工業大)

### □0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社、近刊)、『心はあるのか』(ちくま新書、近刊)ほか

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

### □1□ 9・11は世界を変えたか?

#### 1) テロは絶対の悪か?

- ・人殺しのスペクトル 事故/正当防衛/戦争/死刑執行/自殺/殺人/無差別殺人
- テロは、無差別に不特定多数の人びとを殺すことを目的とする(中立を認めない)
- ・国際テロ テロ実行犯←国際テロ組織←テロ支援国家 ⇄ 自衛権の発動(国際法)

#### 2) テロは、安全保障の枠組みを変えた?

- ・冷戦 核兵器の均衡=相互確証破壊(核の傘) 正規軍vs正規軍 総力戦の一種
- ・ポスト冷戦 核の脅威の消滅 テロの脅威(核・生物・化学)の増大
- ⇒主権国家の連合(国民の相互監視)によって阻止

#### 3) アフガン戦争とテロ特別措置法

- ・日米安保条約(片務性→専守防衛)からの逸脱 アメリカの個別自衛権への協力
- ・集団的自衛権(軍事同盟)→第9条&憲法に抵触 ⇒憲法改正?

### □2□ 小泉内閣で日本は変わるか?

#### 1) 小泉政権のねじれ構造 支持率80%強→自民党支持30%強=無党派50%(!)

- ・派閥党内力学<国民的人気 解散・新党カード→そろそろ錆びつき?

#### 2) 小泉内閣で「改革」は進むのか

- ・「改革をやります」に国民は熱狂、でも、どんな「改革」をしてほしいかわず
- ・“小泉以外の誰が首相になっても同じ”(猪瀬)と腹を決め、改革について勉強を

#### 3) 明確な長期ビジョンを掲げよう

- ・新しい公共性: ふつうの大人たちが実体 政府・自治体は、委任を受けた派生体
- ・田中康夫・長野県知事 「脱ダム宣言」「脱記者クラブ宣言」→金・言葉の公共性

### □3□ 21世紀は、どんな世界になるのか

#### 1) 科学技術は地球を救うか?

- ・IT革命→情報コストの劇的低下(ブロードバンド) →組織、国家の輪郭が曖昧に
- ・地球環境制約の深刻化 気候変動→炭素税→熱縮 エネルギー価格高騰
- ・人口爆発&農地の拡大困難 →食糧不足 →食料価格高騰(第三世界の不満増)
- ⇒情報価格↓×資源価格↑(資源/情報ギャップの拡大) 国際社会の緊張増大

#### 2) 先進国の動向

- ・アメリカ→唯一超大国としての軍事的優位 but経済力の長期低落 →多角的バランス
- 2020年のGNP予測 中国→アメリカ→インド→日本→…… 世界の中心はアジアへ
- ・EU→国家の壁を越える共同体 統一の通貨・制度 →ロシア、イスラムの排除

#### 3) 中国・東アジアの動向

- ・統一コリアの誕生? 南北会談で、統一を共通目標として確認→7千万国家の登場
- ・中国の将来体制? 社会主義/市場経済の矛盾 台湾問題 中国vsアメリカ
- cf日米ガイドライン 日本の「周辺事態」に対応 台湾が入るか「曖昧」政策

#### 4) 第三世界の動向

- ・権利としての経済発展⇄環境制約 先進国エゴを糾弾する世界思想or世界宗教
- ・イスラム圏 西欧文明に対する抵抗者として登場するか cfイランの憲法体制

### □4□ 21世紀、日本は復活できるか

#### 1) 日本の21世紀戦略 ~文化の創造的価値を重視

- ・「科学技術創造立国」路線 独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
- ・国際分業のなかに活路を見出す 日本市場→世界市場 企業行動の世界標準化

#### 2) 政治の改革 ~意思決定力の強化

- ・国会の機能強化 次点歳費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
- ・中央省庁の権限縮小・簡素化・規制緩和 特殊法人の民営化 人事異動の促進
- ・地方政府の自立 財源(たとえば消費税)を移管して交付税を廃止 委任事務廃止

#### 3) 企業社会の改革 ~経済体質の強化

- ・戦後社会は、資本主義でなかった! 配当が低い⇄株主不在/累進課税/資産課税
- ⇒持株会社の復活 ベンチャー企業育成(自由競争、間接金融)
- ・入り口文化、年次別管理からの脱却 インターンシップ/年俸制/転職の自由

#### 4) 教育の改革 ~新しいタイプの日本人形成を

- ・小中学校: 学区制の廃止、校長に経営権(含人事権)を、学校理事会の設置
- ・高校: 入試廃止、高検(高等学校学力検定試験)の導入、個人カリキュラムの編成
- ・大学: 入試廃止、学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金、研究ポスト公開

#### 5) 東アジア国家としての再出発

- ・公民権制度を導入 →在日外国人を日本社会の正規メンバーに →統一コリアに対応
- ・歴史と向き合う国民 学生交流、民間対話、史跡訪問、芸術作品助成、……

#### 6) 明瞭な世界戦略とメッセージを

- ・非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化の利点
- ・国際協力の戦略を 教育援助(初等識字教育→人口↓) 在来農法・技術援助

学術フォーラム  
「多価値化の世  
紀と原子力」

ポスト 9・11の  
安全保障と科学技術

2002.10.4  
於：東工大百年記念館  
橋爪大三郎

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。  
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』（以上、勁草書房）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・勁草書房）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きた北朝鮮』『天皇の戦争責任』（以上、共著、径書房）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『政治の教室』（PHP新書）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著・廣済堂出版）、『寛容のレシピ』（グラスビー著、解説・NTT出版）、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』（共著・朝日新聞社）ほか。  
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 冷戦にいたる、戦争と安全保障の歴史

1) 国家と戦争

- ・国家：税金を集めて事業を行なう団体 事業～軍事、外交、公共サービス
- ・戦争：国家間の武力による紛争解決 戦争は新しい現実（正統性）を作り出す

2) 戦争のメカニズム 戦争には戦争目的がある

- ・政略→戦略→戦術 クラウゼヴィッツ『戦争論』…1) 敵軍殲滅 2) 領土占領 3) 意志をくじく
- ・補給はなぜ大切か 補給 会戦平面～横隊～縦隊（自己武装でない）～補給 軍政/軍令の分離 会戦序列の決定 参謀本部の成立 職業軍人（勲章→転職）

3) 近代の戦争

- ・歩兵 師団（作戦単位）～連隊～大隊（横列戦闘単位）～中隊～小隊～班 歩兵は、1) 敵の殲滅、2) 領土の占領、3) 民間人の保護、を行なう
- ・ナポレオンの戦術改革 徴兵（戦闘意欲向上、兵力向上）→消耗戦・殲滅戦へ
- ・持久戦（日露戦争→第一次大戦） 機関銃（防御に適する）+縦深陣地  
⇒敵正面の突破・迂回が困難に →戦車・毒ガス（生物・化学兵器）・飛行機

4) 総力戦：戦争目的を第一に国家・社会全体が組織される態勢 前線/後方の別なし

- ・石原莞爾の予言～最終兵器の登場は戦争を不可能にする ⇒核兵器と冷戦

5) 冷戦は、なぜ安定していたか

- ・2国の対立（≒二体問題） 相互確証破壊（防衛ミサイル禁止＝ABM条約）
- ・核の傘（恐怖の均衡）～日米安保体制（日本の個別自衛権+アメリカの集団自衛権）  
⇒通常戦力による侵攻は不可能 ⇒ゲリラ戦（ベトナム戦争、アフガン戦争）

□2□ 9・11は世界を変えたか？

1) テロは絶対の悪か？

- ・人殺しのスペクトル 事故/正当防衛/戦争/死刑執行/自殺/殺人/無差別殺人  
テロは、無差別に不特定多数の人びとを殺すことを目的とする（中立を認めない）
- ・国際テロ テロ実行犯→国際テロ組織→テロ支援国家 ⇄ 自衛権の発動（国際法）

2) テロは、安全保障の枠組みを変えた？

- ・冷戦 核兵器の均衡＝相互確証破壊（核の傘） 正規軍vs正規軍 総力戦の一種
- ・ポスト冷戦 核の脅威の消滅 テロの脅威（核・生物・化学）の増大
- ・軍事革命（RMA）……消耗戦から麻痺戦へ 敵主力を破壊せず無能化～コンピュータ制御の弱点～同時多発的に精密・適時の攻撃～前線/後方、軍事/民間の差異消滅
- ・テロ&テロ支援国家 vs 主権国家連合 テロに対して戦争で対抗  
主権国家の連合＝国民の相互監視 ⇒ 自由（人権）vs 安全 住基ネット

3) 湾岸戦争と平和維持活動

- ・安保理の制裁決議+多国籍軍（日本は資金提供のみ） ⇒PKO法、自衛隊派遣  
⇒ 日米安保再定義、ガイドライン改定（周辺事態） 対北朝鮮、中国

4) アフガン戦争とテロ特別措置法

- ・日米安保条約（片務性→専守防衛）からの逸脱 アメリカの個別自衛権への協力
- ・集団的自衛権（軍事同盟）～第9条&憲法に抵触 ⇒憲法改正？

5) イラク戦争と新しい国際秩序

- ・イラク攻撃＝予防戦争 戦争（特に先制）を不法行為とする慣例の打破
- ・フセイン政権打倒～保障占領～民主化実現 すなわち 内政干渉 ×民族自決
- ・イラクのイスラエル攻撃（大量破壊兵器）⇒反撃（核）から、中東大戦争へ？

□3□ 核とテロの脅威

1) 放射性物質の脅威

- ・化学物質（爆薬、毒ガス）は不安定で、比較的短期間で原状を回復できる  
放射性物質は半減期が長いものがあり、長期間にわたって被害が継続する
- ・細菌などは環境中へ放出されると拡散＝流行する可能性があるが、収束する  
放射性物質は環境中へ放出されると拡散し、残留・蓄積して被害が持続する  
⇒ 放射性物質そのものは本来、兵器たりえない（核爆弾としてのみ有効）

2) テロリストの核兵器

- ・汚い爆弾 放射性物質を環境中へ放出するタイプ
- ・核ジャック 核物質や核施設を強奪して、転売したり、政府を脅迫したりする
- ・自家製核爆弾 運搬装置に比べ爆弾製造のほうが簡単→人口密集地で爆発させる

3) 合理的テロリスト/宗教的テロリスト（テロリストの2類型）

- ・合理的テロリスト…現実社会のなかに政治的、経済的利害をもつ →破壊は限定的
- ・宗教的テロリスト…現実社会を超えた価値に利害関心をもつ →破壊は無限定的  
科学技術者が、宗教的テロリストとなる可能性もある（破壊が自己目的）
- ・合理的テロリストの行動は予測しやすい/宗教的テロリストの行動は予測しにくい

4) テロ防衛態勢

- ・テロ防衛態勢が強力であるほど、テロ抑止の効果がある（弱体だとテロを誘発）
- ・自衛隊の活動には制約が大きい 基地周辺や偵察では武器携行 原発は警察が警備
- ・テロ防衛態勢はコストがかかる 完全なテロ防衛態勢はありえない

5) テロ摘発態勢

- ・テロは「ヘイト・クライム」の一種 ⇒「憎しみ」を組織するプロセスを探知可能
- ・テロのネットワークが国際的に展開している場合、一国政府の対応には限界がある
- ・テロの摘発に有効なのは電子情報のモニター ～ 権力統制のメカニズムが変質？  
⇒本土防衛（homeland security）は、各国政府の国民に対する義務（政治課題）となる

早稲田祭・講演  
政治経済研究会  
於：7号館 321

——日本の針路

## その先の日本国へ

2002. 11. 4  
橋爪大三郎  
(東京工業大)

### □0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きたる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『心はあるのか』(ちくま新書、近刊)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。  
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

### □1□ 冷戦にいたる、戦争と安全保障の歴史

#### 1) 国家と戦争

- ・国家：税金を集めて事業を行なう団体 事業～軍事、外交、公共サービス
- ・戦争：国家間の武力による紛争解決 戦争は新しい現実(正統性)を作り出す

#### 2) 近代国家の戦争メカニズム 戦争には戦争目的がある

- ・武力独占 軍隊/警察の分離 軍政(陸軍省)/軍令(参謀本部)の分離 文民統制
- ・政略→戦略→戦術 戦略『戦争論』…1)敵軍殲滅 2)領土占領 3)意志をくじく
- ・戦時国際法 戦争は合法的な行為である ←→テロリスト、ゲリラ

軍隊の要件 ①指揮系統②制服③明確な武器の携行④国際法の遵守(民間人保護)

#### 3) 20世紀は、戦争の世紀

- ・持久戦(日露戦争(1904)→第一次大戦) 機関銃(防御に適する)+縦深陣地  
⇒敵正面の突破・迂回が困難に →戦車・毒ガス(生物・化学兵器)・飛行機
- ・総力戦：戦争目的を第一に国家・社会全体が組織される態勢 前線/後方の別なし
- ・冷戦：核の均衡 相互確証破壊(防衛ミサイル禁止=A BM条約)  
核の傘～日米安保体制(日本の個別自衛権+アメリカの集団自衛権)  
アメリカの軍事費はGDPの7%、ソ連20%、日本1% ⇒戦後日本の繁栄

### □2□ 9・11は世界を変えたか?

#### 1) ポスト冷戦期(1989～2001)：9・11以後への転換期

- ・冷戦の集結 核の脅威の消滅 テロの脅威(核・生物・化学兵器)の拡散
- ・湾岸戦争：イラクの侵略に対する原状回復 安保理の制裁決議+多国籍軍
- ・94年朝鮮半島危機 ⇒ 日米安保再定義、新ガイドライン(周辺事態法) 有事法制

#### 2) 9・11テロは世界を変えた

- ・9・11テロ 軍事革命(RMA)：麻痺戦 敵主力を破壊せず無能化～同時多発攻撃
- ・「新しい戦争」 テロ(&テロ支援国家) vs 主権国家連合 正規軍で反撃
- ・テロ特別措置法 日米安保条約(片務性)から逸脱 ∴米の個別自衛権へ協力

#### 3) 対イラク攻撃と新しい国際秩序

- ・イラク攻撃=予防戦争 戦争(先制攻撃)を不法行為とする国際法の変更
- ・フセイン政権打倒～保障占領～民主化実現 すなわち 内政干渉 ×民族自決
- ・モスクワ劇場事件 テロリストとは交渉せず、脅しに屈せず～政府の正統性のため  
対テロ原則を貫くなら、武力解決のたび人質全滅を覚悟すべき テロはなくせない

#### 4) 9・11以後の市民社会の変質

- ・市民こそ危険 市民が国家を監視(近代憲法の大原則)⇒国家が市民を監視
- ・監視は自由を制限 ⇒国家にどの程度の監視を委託するか、市民が選択

### □3□ 日本の民主主義は、ここがおかしい

#### 1) 小泉政権のねじれ構造 支持率80%強-自民党支持30%強=無党派50%(!)

- ・派閥党内力学<国民的人気 解散・新党カード→もう無理か?
- ・「改革をやります」に国民は熱狂、でも、どんな「改革」をしてほしいか曖昧

#### 2) 政権交替が起こらない

- ・小選挙区制への抵抗(公明党、共産党) →比例区、死票を嫌う、固定的投票行動
- ・野党分裂と政策形成能力の不足 官庁は与党に情報と政策プランを提供  
政策コミュニティ(policy community)の不在 政府～議会～シンクタンク～大学～企業

#### 3) 明確な長期ビジョンを掲げよう

- ・新しい公共性：ふつうの大人たちが実体 政府・自治体は、委任を受けた派生体
- ・田中康夫・長野県知事 「脱ダム宣言」「脱記者クラブ宣言」～金・言葉の公共性

### □4□ 日本の資本主義は、ここがおかしい

#### 1) 個人株主(資本家)が存在しない

- ・個人株主50%(戦後すぐ)→法人株主(相互持ち合い)が増え続ける/配当が低い
- ・株主不在の株主総会 ⇒持株会社復活、ベンチャー企業育成、投資優遇制の導入を

#### 2) 会社は共同体である

- ・年次別管理 年功賃金(定期昇給) サービス残業 経営者の個人財産担保
- ・入り口文化から、労働移動の自由確立を インターンシップ/年俸制/転職の自由

#### 3) なぜ不良債権処理が進まないか

- ・土地を担保に融資、株券を保有 ⇒過剰流動性・バブルの発生/不良債権の雪ダルマ
- ・竹中改革：経営陣総退陣+公的資金の強制注入(国有化)+ゾンビ企業倒産  
(韓国モデル：銀行国有化と経営陣辞職、財閥整理⇒V字回復)←銀行+自民党の反対

#### 4) 改革のガンはどこか

- ・財政投融资(原資～郵貯・年金)…市場のチェックを受けず政策的投資を行なう  
⇒無駄な道路の建設と赤字、政府自治体の有利子負債の累積 ⇒資金供給を圧迫
- ・1200兆円の預貯金と企業債務証券をスワップしてはどうか ×債権買取機構
- ・明確な改革のプランと世界戦略が、日本の経済危機を救う

朝日カルチャー  
東工大JCプロ  
ジェクト委員会

価値判断と21世紀ビジョン②

## 言語ゲーム的思考

2002. 11. 14  
橋爪大三郎  
(東京工業大)

### □0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きた思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシビ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)、『はじめての言語ゲーム(仮題)』(講談社現代新書・近刊)ほか。  
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

### □1□ 社会学のパースペクティブ

#### 1) 経済学は人間と社会をどうみるか

- 近代経済学：価値の一元主義 功利主義  
効用 (utility) ⇒ 効用関数 (utility function) ⇒ 無差別曲線 (indifference curve) ⇒ 代替 (substitution) ⇔ 価値の多元主義 (愛情とお金のジレンマ)  
ミクロ～マクロが相似 例) 加算可能性 (価格の存在)、凸構造 (convex structure)
- ゲーム理論：効用をもつ二者が行為 ゲームは多数あり均衡・最適は保証されない

#### 2) 政治学は人間と社会をどうみるか

- 近代政治学：制度 (議会制民主主義・選挙) を絶対視  
人びとは多様な価値観をもっている⇒いくつかの政策選択肢+投票による意思決定  
投票のパラドックス……投票は、合理的で最善の結果をもたらすとは限らない
- 民主主義の正統性 ～選挙は、合理的だからでなく、自己決定の制度だから望ましい

#### 3) 社会学は人間と社会をどうみるか

- 人間は複数の価値をもっている パーソンズのAGIL ウェーバーの理解社会学
- 行為は価値を反映する 行為を集約する制度 (選挙や市場) は必ずしも存在しない

最単純の意思  
決定モデル

行動 = f (状況、価値)



今田高俊+橋爪大三郎(ed)『社会理工学入門』日科技連

### □2□ 21世紀と価値の多元主義

#### 1) アメリカの覇権と20世紀

- アメリカは人造国家 コミュニティ～国家(州)～United States = 自由  
旧世界(伝統、文化、宗教、身分、…) ⇔ 新世界(土地・資源、自由)
- 地政学的優位⇒比較優位により、先端工業国家＝覇権国に(経済・軍事・文化)
- アメリカの戦略 旧世界の挑戦を許さない、旧世界間の戦争を防ぐ、自由(貿易)  
グローバル化：ポスト冷戦・世界市場・IT革命・世界標準・アメリカ化

#### 2) 価値の多元主義と21世紀

- 価値の多元化＝旧世界と新世界の融合 Cf 文明の衝突～ハンチントン  
旧世界…多元的価値が分離して存在 新世界…普遍的価値が孤立して存在  
⇒21世紀…多元的価値が並立的に存在 → 支配的価値をめぐる争い

#### 3) 価値の相対主義/価値の絶対主義

- 価値をめぐる争いは決着しない ∴ 決着には規準＝価値が必要 ⇒ 擬似解決へ
- 1) メタ価値主義：ある価値の普遍性を実力で承認させる アメリカの自由・人権…
- 2) 価値相対主義：すべての価値を対等と容認 → メタ価値主義を容認せざるをえず
- 3) 価値多元主義：すべての価値の相互承認を強制 → 実は、メタ価値主義の一種？
- 多文化主義 (multi-culturalism) …固有文化を背景にする移民コミュニティ＝マイノリティが、差別を排して対等に国家と社会に参画する枠組み ～オーストラリア

### □3□ 言語ゲーム的思考

#### 1) ヴィトゲンシュタインの言語ゲーム

- Ludwig Wittgenstein (1889-1951) ウィーン生まれ、ケンブリッジで活躍した哲学者  
後期の『哲学探究』…言語ゲーム (language game) のアイデアを提唱  
貨幣の言語ゲーム 一万円札(価値)/ただの紙切れ ゲーム＝ルールが価値をうむ  
権力の言語ゲーム 王だから従う/人びとが従うから王だ Cf 合法性の循環
- 言語ゲームの内的視点/外的視点 外的視点に立てても、ゲームは解除できない  
Th 言語ゲームのなかで、その前提は、実体化される(ゴドーを待ちながらの原理)

#### 2) 言語ゲームは、価値相対主義か

- 人間は、どんな言語ゲームの外にも出られる(ルールを変更できる)～価値の相対性
- 人間は、かならず何かの言語ゲームの中にいなければならない～価値の絶対性  
例) 民主主義は、絶対ではない。でも、最善である。ゆえに、民主主義を尊重する。  
例) 市場経済は、絶対ではない。でも、最善である。ゆえに、民主主義を尊重する。
- 言語ゲームは、価値の多様性と相対性を踏まえ、人びとが共存するための理論的基礎

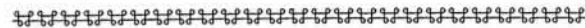
#### 3) 21世紀と、社会を生きた態度

- 21世紀はテロの時代 テロ対策：社会・市民を国家が監視 ⇒ 市民の自由を制限
- モスクワ人質事件 特殊部隊の突入～犯人殺害・人質の犠牲 人質の全滅も覚悟  
テロ抑止～1)脅しに屈しない、2)交渉しない、3)許さない テロと戦う＝正統性
- 「テロを絶滅する」ではなく「テロを減少させる」  
\* 市民の自由を確保＝テロの危険を甘受する (人質になったらあきらめる)  
\* 現実的な希望を生み出す最大限の努力 ⇒ アメリカの相対化……思想的課題
- ポストモダン (冷戦～ポスト冷戦の思想) は終わった。言語ゲームの思考で生きよ。

アジア太平洋研究会  
APAフォーラム  
於：J・Tホール

## 多文化主義先進国 オーストラリアに学ぶ

2002. 11. 15  
橋爪大三郎  
(東京工業大)



### □0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシビ』(グラスビー著、藤森黎子訳、橋爪解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書、近刊)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

### □1□ 多文化主義とはなにか

- 1) 多文化主義 multiculturalism : 固有文化を背景にする移民コミュニティ(マイノリティ)が、差別を排して、対等に社会と国家に参画する枠組み → オーストラリア  
⇒ (広義) : 人類の多民族共同体が、互いを尊重しつつ多様に平和に生きる技術(価値・思想・行動様式)のこと → 日本社会にもっとも欠けているのでは  
cf 西欧文化中心主義、自民族中心主義 ethnocentrismに反対し、多様な文化を対等に認めようというポストモダン価値相対主義の主張と 誤解されている場合が多い。
- 2) グローバリゼーションと多文化主義  
・冷戦が終わる×世界市場×IT革命×アメリカの覇権×世界標準×アメリカ文化優越  
→ 情報の伝達が加速し、競争が激化し、制度の垣根が低くなる  
・国民国家の枠組みがゆるみ、国内に民族集団が散在、異文化の相互浸透が進む

### □2□ オーストラリアと多文化主義

- 1) 白豪主義から多文化主義へ  
・オーストラリアは1970年代、労働党ホイットラム政権の下、多文化主義に転換した。  
その中心人物が、アル・グラスビー移民大臣。 The Tyranny of Prejudice 1984
- 2) オーストラリアが多文化主義「先進国」である理由  
・オーストラリアは植民地のまま(独立戦争を経験せず)〜総督の支配〜大英帝国民  
・オーストラリアは、イギリスからの自立をはかるとき、自らの実態(多文化状態)を肯定し、アイデンティティとするはかなかった。 cf アメリカの独立宣言
- 3) オーストラリア流の多文化主義とは  
・コミュニティ関係(差別対策) コミュニティー : ある文化を担う人びとの集団  
・生きていく権利を守る/言論で戦う/自文化への誇り/態度の差別/差別のばかばか

しさをユーモアで包む(差別する者を孤立させる)/……

### □3□ アメリカの覇権と多文化主義

- 1) 多文化主義は、アメリカの価値観と、どこが違うのか  
・アメリカ…新大陸の工業文明、資源豊富、旧世界(伝統、文化、歴史)と絶縁、自由  
・アメリカの戦略 : 1) 旧世界に干渉されない、2) 旧世界の挑戦を許さない、3) 旧世界の団結も抗争も困る アメリカは、資本主義(経済的自由)と民主主義(政治的自由)に、どの国よりも大きく依存している  
・アメリカの覇権〜グローバリゼーション〜アメリカの価値観と制度の押しつけ  
多文化主義〜アメリカと旧世界の共存〜価値の多様性〜一元的価値観への抵抗
- 2) 価値の多元化と21世紀  
・価値の多元化=旧世界と新世界の融合 Cf 文明の衝突〜ハンチントン  
旧世界…多元的価値が分離して存在 新世界…普遍的価値が孤立して存在  
⇒ 21世紀…多元的価値が並立的に存在 → 支配的価値をめぐる争い
- 3) 価値の相対主義/価値の絶対主義  
・価値をめぐる争いは決着しない : 決着には規準=価値が必要 ⇒ 擬似解決へ  
1) メタ価値主義 : ある価値の普遍性を実力で承認させる アメリカの自由・人権…  
2) 価値相対主義 : すべての価値を対等と容認 → メタ価値主義を容認せざるをえず  
3) 価値多元主義 : すべての価値の相互承認を強制 → 実は、メタ価値主義の一種?  
・多文化主義(multi-culturalism) …冒頭の定義を参照 オーストラリアは実験場

### □4□ 日本はオーストラリアの多文化主義から何を学ぶ

- 1) 個々人が自分らしく生きる自由 多様性は、社会を活性化する  
⇔ 画一性=日本的平等主義(同じ集団に属するならばみな同じ)の行き詰まり
- 2) 英語(標準)以外に、コミュニティは固有性(歴史・言語・文化)を保てよう  
世界と語るための英語・プラス・自分を語るための日本語 cf 軽薄国際人
- 3) 多様性・寛容の社会へ 他者が自分と同じだと期待しないこと  
ミニマム・ルール社会 : 他者の行動が予測できない⇒最低限のルールを明示化  
・異質な他者と協働する能力を高めることは、自分を失うことではない。むしろ、グローバリゼーションのなかで、日本社会の伝統をひき受けることだ。

### □4□ 差別教育が差別をひどくする

- 1) 「差別はやめましょう」→ 差別される人びとは見えない(いないのと同じ)  
→ 差別するマジョリティ/差別されるマイノリティ
- 2) 日本の差別教育は、いわれない差別が存在することが差別を再生産するメカニズムに  
対抗できない
- 3) 「差別されないようにしましょう」→ 誰でも差別されうる  
→ 差別されても自分を見失わない、立ち上がる

### □5□ 日本を作りかえる提案

- 1) 移民政策 国外の人びとを計画的に受け入れる戦略を考えよう ex 大学の国際化
- 2) 市民権、永住権の制度 国籍を取得しなくても、日本社会の正式のメンバーとして  
外国人が日本で暮らすことができるような制度を
- 3) 外国人に住みやすい魅力ある国は、日本人にとっても住みやすい魅力ある国  
自由(職業選択の自由、居住地の自由)を拡大すれば、人生が拡大する

## □0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きた思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『心はあるのか』(ちくま新書、近刊)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。  
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

## □1□ レヴィ＝ストロースとは誰か

- 1) Claude Lévi-Strauss 1908- フランスの人類学者。最初、哲学を学び、メルロ＝ポンティ、ボーボワール、サルトルらと交流、のち人類学に転じる。ブラジルに赴任し原住民を調査。第二次大戦に参戦。フランス降服後、ユダヤ系の彼はナチスの手を逃れてポートピープルとなり、大西洋を越えてアメリカへ脱出。NYのニュー・スクール・フォー・ソシオロジーに落ち着く。言語学者のR・ヤーコブソンと知り合う。博士論文『親族の基本構造』を執筆。帰国して、コレージュ・ド・フランスの教授となる。『悲しき熱帯』『構造人類学』(1958)によって、構造主義ブームを巻き起こす。『今日のトーテミズム』『野生の思考』など野心作をつぎつぎ発表。やがて関心を神話に移し『神話学』全4巻を完成。フーコー、ラカン、アルチュセールらと並び、構造主義のリーダーとみなされた。
- 2) 構造主義 structuralisme の三つの源泉 ～『悲しき熱帯』
  - ・ ソシユール言語学 複雑なシステムを、基底となる数学的な構造に還元
  - ・ マルクス主義 現象の背後に、目に視えない構造(下部構造)を想定
  - ・ 精神分析 意識でない領域に、構造化する力学の働きを見出す

## □2□ ソシユール言語学のインパクト

- 1) ソシユール Ferdinand de Saussure 1857-1913 スイスの言語学者。晩年に一般言語学を講義、そのノートを編集した『一般言語学講義』が現代言語学の基礎となる。
- 2) 恣意性の原理 言語記号=SA(能記=聴覚映像)+SE(所記=概念)
  - ・ 聴覚映像も概念も、記号に先立って客観的に存在するわけではない。もともと連続的な世界が、記号とともに分節される。その分節の仕方は文化相対的である。
  - ・ 言語は、記号のシステムであるが、その秩序は、自然のなかに根拠をもっていない。
- 3) 音韻論と二項対立 SA=音素(phoneme)の集まり。音素は、二項対立の組合せ。(音韻論は、量子力学と、ちょっと似たところがある。) ～<構造>  
母音三角形 子音三角形 ……二項対立(binary opposition)はヤーコブソンの概念

## □3□ 『親族の基本構造』のポイント

- 1) 近親相姦の禁忌 incest taboo : それ自体、説明されない親族現象の根拠～恣意性  
Th 近親相姦の禁忌は、自然/文化の境界に位置する コミュニケーション能力
- 2) 交叉イトコ cross-cousin 婚の謎
  - ・ 同じ親等であっても、母方交叉イトコは選好され、父方交叉イトコは忌避される。
  - ⇒それは母方の場合、女性を与え手から受け手に順行させるが、父方は逆行させるから。
- 3) 近親相姦の禁忌は、「女性を交換するシステム」としての親族をうみ出す  
自己消費の禁止=「交換せよ、交換せよ！」=社会と家族の分離(人間の条件)
- 4) 親族システムの二類型
  - 母方交叉イトコ婚システム ～ 一般交換 ～ 与え手→受け手へと女性を贈与
  - 両方交叉イトコ婚システム ～ 限定交換 ～ 特定の相手と女性を相互交換
- 5) 婚姻クラス・システム
  - ・ オーストラリアの婚姻クラスは、両方交叉イトコ婚システムを複雑にしたもので、抽象代数学という群の構造をそなえている 野生の思考の近代的思考(代数学)

## □4□ 『神話学』のエッセンス

- 1) 神話学 mythologique の方法論
  - ・ 神話は最小の要素(神話素)からなる物語(版)の全体である。物語…対立の組合せ
  - ・ 物語と物語は変換(置換)により結ばれ、変換に関して不変なく構造>が見つかる
  - ・ 神話に隠された<構造>が、神話の真の主題であり、集合的で合理的な思考を表す
- 2) <構造>概念の数学的背景
  - ・ <構造>を、常識、建築学、マルクス主義のように、表層の構造と考えてはいけな
  - ・ <構造>は、数学(ことに射影幾何学・トポロジー)の比喩ではないか ～ブルバキ
  - ・ 射影幾何学では視点を移動すると、深層に、変換に関して不変なく構造>が現れる
- 3) 構造主義的テキスト観の生成(テキストを「読む」)
  - ・ 表層～テキストの字義通りの意味、作者や読者の意図 深層～テキストの<構造>
  - ・ 深層では、テキスト相互の変換、間テキスト性、隠れた意味が、方法と相関して露呈

## □5□ レヴィ＝ストロースの構造主義は、なにを残したか

- 1) 脱・自民族中心主義 anti-ethnocentrism
  - ・ 西欧近代の価値観や認識枠組みと、未開社会などの価値観や認識枠組みは、同型(対等)である →西欧の優位(植民地、帝国主義、オリエンタリズム)は間違っている
- 2) マルクス主義に対する批判
  - ・ 歴史法則(人類はだんだん進歩)、文化理論(下部構造が上部構造を規定)は誤り
  - ・ 知の体系は神話と同じ →「真理」は、近代知の内部の信念で、必ずしも根拠がない
- 3) ヒューマニズムの新しい定義
  - ・ 人間であることの条件を、科学的に根拠づけた(構造主義は方法で、主張を持たない) 近代的価値にコミットすることが、必ずしもヒューマニズムの条件ではない
- 4) 価値相対主義への誘惑
  - ・ あらゆる知のシステムが対等 →どれをとるかの基準なし →価値相対主義??
- 5) ポスト構造主義
  - ・ <構造>は、ダイナミズム(個人の情動、社会の変動)を表現しない →形式論理である構造主義を超える、プラス・アルファの仮定を →外(の)思想、浮遊するSA、…(本質的には詭弁論理)

経済産業省  
経済思想研究会  
於：別館4階417

## 日本人の精神構造と宗教

2002. 11. 20  
橋爪大三郎  
(東京工業大)

### □0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『心はあるのか』(ちくま新書、近刊)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。  
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

### □1□ 仏教と日本人

#### 1) インドの仏教

- ・バラモン教(カースト制、梵我一如) 輪廻 出家/サンガ(僧) 解脱
- ・経(sutra) 戒律 論(アビダルマ) 仏塔信仰 大乘教団 密教

#### 2) 中国の仏教

- ・漢訳 僧綱制(国家仏教) 教相判釈 天台五時教判 禅宗(血脈相承) 精進料理

#### 3) 日本の仏教

- ・漢訳經典をそのまま用いる 国分寺 三教一致(儒・仏・道) 葬送儀礼 莊園制 本地垂迹説 逆本地垂迹説 戒壇
- ・浄土真宗~非僧非俗(妻帯) 悪人正機 他力本願
- ・日蓮宗~法華専持 久遠実成仏 →日蓮正宗(日蓮=本仏) ] 脱テキスト

### □2□ 儒教と日本人

#### 1) 中国の儒教

- ・祖先崇拜 patrilineal society 宗族 都市国家 階層分化→人材抜擢
- ・血縁原理/業績原理 ⇔ 差別道徳(皇帝中心の官僚組織/宗族~忠/孝)
- ・科学 朱子学 訓詁学

#### 2) 日本の儒教

- ・律令制度→令外官(蔵人頭、征夷大將軍) 班田収授法→莊園制 兵制→武士
- ・僧侶が儒教を兼学
- ・朱子学官学化(正統論) 忠孝一如(幕藩制の君臣関係) 日本型官僚制(政経一体)

### □3□ 神道と日本人

#### 1) 原日本社会

- ・太平洋圏 non-unilineal society (非単系社会) ambi-lineal (択系的)  
→明確な親族集団を持たない 沖縄~ヒキ 女性の宗教的呪力
- ・靈魂 他界 アニミズム 臨在感的把握 氏神

#### 2) 政治的統合と神話の編成

- ・神話~神々の相互関係~それぞれの氏神を戴く豪族の相互関係~政治的統合の根拠

#### 3) 仏教・道教との習合

- ・本地垂迹説 権現 崇り神 密教~インド系の神々と呪法 一揆

#### 4) 神道ナショナリズム

- ・垂加神道(山崎闇斎) 儒教~天皇~神道 水戸学(←朱子学・正統論)
- ・国学(反中国ナショナリズム)→ 尊皇攘夷

### □4□ キリスト教と日本人

#### 1) 切支丹弾圧→隠れ切支丹 宗門人別

- ・新井白石 賢人/愚人

#### 2) 神道は宗教にあらず 天皇崇拜の強制 伊藤博文の憲法戦略 内村鑑三の不敬

- ・天皇の現人神神話 大日本帝国憲法(立憲君主制) 教育勅語・軍人勅諭  
Kaesaropapismus

#### 3) マルクス主義体験 マルクス主義=ユダヤ・キリスト教

### □5□ 宗教と日本人

#### 1) 宗教に対する軽蔑

- ・江戸幕府の政策 + 明治政府の政策 + 宗教改革に相当する体験がない
- ・新興宗教 金集め(葬儀を行なうことができる教団は少ない)→批判・不評

#### 2) 宗教に対する無理解

- ・信者が少ない キリスト教(1%)、イスラム教、ユダヤ教、ヒンドゥー教(0%)
- ・知識が少ない 学校教育では宗教をとりあげない 新興宗教への警戒感

#### 3) 無宗教という宗教

- ・日本人は、自分の行動原理・原則を説明することをしない  
組織原理が優先 “togetherness” の優越  
普遍的原理を追求する動機が希薄

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『政治の教室』(PHP新書)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『心はあるのか』(ちくま新書、近刊)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ 法とは何か

1) 法は、強制をともなったルールである。

- ・紛争：個人と個人、集団と集団の間の利害対立が顕在化→調停、仲裁、闘争→決定
- ・「正しさ」の感覚……人びとが、自分の利害に反しても、決定を受け入れる理由
- ・正しい決定は実現しなければならない ⇒人びとの支持(一般意思) ⇒強制

2) 法の強制説(命令説) vs 法のルール説

- ・法の本質は、強制なのか、それともルールなのか?(強制なしにルールは可能か?)
- ・法の強制説：J・オースティン cf. マルクス&レーニン 国家暴力装置説
- ・法のルール説：強制はルールを生み出せない ルールの根拠はルール自身

3) 法の理性説(自然法)

- ・スコラ哲学の法理論～神の法/自然法/実定法 →啓蒙主義法理論～自然法/実定法
- ・自然法：神の法のうち、理性によって認識できる部分 法に従う根拠=神(理性)
- ・人権、正義、…は実在(それを理性が認識) やこれは、ルールの与える効果では?

□2□ ハートの法理論

- 1) H. L. A. Hart(1907-) : イギリスの法理学者、『法と正義』(みすず書房)を著す。
  - ・Df. 法は「一次ルールと二次ルールの結合」である。一次ルール：責務を課すルール
  - ・二次ルール：承認のルール、変更のルール、裁定 adjudication のルール

2) 言語ゲーム language game としての法

- ・言語ゲーム：ルールに従った人びとのふるまい 言語ゲームとルールは表裏の関係
- ・「一次ルールと二次ルールの結合」 ⇒ 一次ゲームとそれに言及する二次ゲーム
- ・一次ゲームのルールが書き出されることで、目に視える(⇒承認、変更)

3) 審判のいるゲーム

- ・審判は「灰色の半影部」についてルールを適用 審判がいてもルールは元と同一
- ・審判の命令に従うゲーム≠審判のいるゲーム(≠裁定のゲーム)

□3□ 近代法の原則とはなにか

1) 罪刑法定主義

- ・ベッカーリア『犯罪と刑罰』の主張：明確な条文にもとづかない限り、処罰されない
- ・推定無罪 検察が有罪の立証責任、失敗すれば無罪 疑わしきは罰せず
- ・国家権力が個人の自由を制限する場合には、明確な法的根拠(人民の同意)が必要

2) 契約自由の原則

- ・個々人はどのような契約も結ぶことができ、法はそれを保護する(cf 公序良俗)
- ・裁判は、個人間の紛争を法によって解決するための公的サービス
- ・所有権の保護、市場経済、結社の自由、職業選択の自由、…… ⇒資本主義システム

3) 憲法

- ・憲法は、政府(権力)を制約するため人民が結んだ統治契約 →政府に遵守義務
- ・憲法は、政府の正統性の根拠 憲法は「最高の法」だが、法の性質が異なる
- ・憲法のほかに、条約、慣例なども同様の役割を果たす ~広義の「憲法」

□4□ ユダヤ教と法

1) 神との契約

- ・宗教=法(契約) ユダヤ教は「神との契約」の観念を編み出し、宗教の骨格とした
- ・神との契約……古代の「宗主権契約」と類似 祝福(約束)/義務/呪い
- ・法を守ること=神への義務=宗教と世俗社会の一致

2) 厳密ルール主義

- ・民族の危機(バビロン捕囚) ~同一性の保守~生活ルールの記述と聖化(申命記)
- ・トーラー(モーゼ五書)=聖典(法源) 儀礼(長老、祭司)よりも律法遵守
- ・安息日、食物規制、割礼、……：異民族との交際、婚姻が困難→マイノリティとして存続

3) 律法と注釈の体系

- ・識字率の上昇(聖典の読誦を義務化) ラビ(平信徒の法学者)が人民を指導
- ・タナハ ←ミシュナ(その注釈) ←タルムード(そのまた注釈) ←ミドラッシュ
- ・神のわざ/人間のわざ 人間の活動(翻訳、注釈)は法源としての権威を持たない

□5□ キリスト教と法

1) 個人救済と愛の律法

- ・パリサイ派(律法学者): サドカイ派(祭司帰属)に対抗して、律法遵守・聖典読解を重視し、シナゴグで教育を普及させた平信徒の知識人
- ・イエスはパリサイ人を非難し、形ばかり律法を守るより神の真意を実現すべきとした。
- ・イエス=キリスト=神の子(権威)⇒神との契約(律法)を更改する権限がある。

2) 世俗法と教会法

- ・弱者の宗教: 「地上の権威に従え」byパウロ 世俗法〜ローマ法/教会法 ×宗教法
- ・ゲルマン民族の改宗 世俗法〜ゲルマン法 聖職叙任権闘争…教会が王に従属!
- ・ローマ教会〜多くの民族に対する普遍教会 ギリシャ正教〜民族ごとに総主教

3) 政教分離と近代国家

- ・ルター「キリスト者の抵抗権について」…隣人愛の再解釈により国家権力を肯定
- ・宗教戦争 ⇒宗教的寛容(異なる信仰共同体の共存〜社会の世俗化) ⇒市民的国家
- ・啓蒙思想〜社会契約説〜理性による社会の創設 ⇒憲法: 1)人間の立法、2)契約更改
- ・議会の機能の変化 もともと国王に対抗&裁判の機関 ⇒ 立法機関(代議制)

□6□ イスラム教とイスラム法

1) 『クルアーン(コーラン)』と法源

- ・クルアーン〜神の啓示の書 ムハンマド=最後で最大の預言者・神の使徒
- ・法判断…すべての行為は合法/違法 判断は神が下すべき 二重の幸福論〜誤審救済
- ・法源: 1)クルアーン、2)スンナ(使徒の言動の伝承)、3)イジュマー、4)キヤース  
スンナは、伝承集(ハディース)に編纂 イジュマーは、法学者の一致した意見  
キヤースは、三段論法による法的推理 人間に立法や解釈の自由はない

2) イスラム法共同体

- ・ウンマ…ムスリムの共同体〜シャリーア(イスラム法)を共有〜礼拝・喜捨・裁判
- ・世俗社会=宗教共同体 聖職者、教会は存在しない 法学者は「僧侶」でない
- ・カリフ(神の使徒の代理人)→スルタン→アミール 権力者/法学者、の二元体制
- ・シーア派/スンニー派(=Σ4大法学派) 法源の違い⇒法の違い⇒裁判所の違い

3) イスラム主義・保守派と改革派

- ・「イスラム原理主義」は、キリスト教による誤解 Fundamentalism…新教の分派
- ・イスラム近代化(西欧化)の困難 1)利子の禁止⇒無利子銀行 2)イスラム法重視⇒  
憲法・議会がなじまない 3)二重の幸福論⇒世俗内禁欲・勤労のエートスの困難
- ・イラン・イスラム革命(イスラム復興) 保守派vs改革派⇔天皇親政説vs機関説
- ・イスラム主義過激派(cfタリバーン) 宗教よりも政治的党派なのでは?
- ・イスラム法とフェミニズム 自由論争(ブルカは不自由vsムスリマ女性こそ自由)

□7□ 仏教と法

1) サンガのルール

- ・出家(比丘の二百五十戒)/在家(五戒) 戒律…釈尊が定めたサンガの規定
- ・サンガは対等な出家修行者のギルドなので、内部組織(恒常的ヒエラルキー)を持たない 全員一致原則 自発性の原則(×強制) 世俗法(刑法…)は及ばない
- ・大乘仏教…大乘の戒律は存在せず⇒六波羅蜜で代替⇒小乗戒を流用

2) 中国仏教と法

- ・国家仏教: 世俗国家が仏教のパトロンになり、仏教側は国家にサービスをこなす
- ・儒仏道・三教合一(隋唐) ⇒日本仏教には、儒教・道教の要素も融合して伝来
- ・禅宗…戒律を破棄、寺の規則(清規)を制定 乞食主義を廃止し労働を修行とする  
殺生戒⇒大豆蛋白を中心にする精進料理(肉食のフェイク) ⇔世俗内禁欲?

3) 日本仏教と法

- ・戒律が正確に伝わらず(鑑真和尚・律宗) ⇒女犯戒、飲酒戒など不徹底
- ・仏教と神道の混淆 仏菩薩=権現=氏神 世俗法がそのまま仏法〜本地垂迹説
- ・浄土真宗 親鸞〜非僧非俗(妻帯)〜出家主義否定 サンガ、寺を廃止(⇒道場)  
明治以後、僧侶の妻帯が浄土真宗以外の宗派にも一般化する(日本のみの特徴)

□8□ 儒教と法

1) 徳治主義と法治主義

- ・儒家の徳治主義(小共同体の秩序)vs法家の法治主義(統一帝国の規範)⇒融合へ
- ・法=統治の手段=支配者の人民に対する命令 ∴支配者は法に拘束されない  
法共同体は形成されない 基層の共同体(宗族、単位)は、道徳的小宇宙に
- ・連帯責任〜累は九族に及ぶ〜個人の自由を抑制  
cf ユダヤ教)主は言われる。…「父がすっぱい葡萄を食べたので子どもの歯が浮く」  
とは言わない。…人はめいめい自分の罪で死ぬ。『エレミヤ書』31:28-30  
仏教)ダルマ=法〜輪廻〜因果応報〜みじめな状態は前世の本人のせい: 個人主義

2) 官僚制と律令制

- ・中国の官僚制〜皇帝の権威+文官の統治 ⇔貴族制(血縁の優位)、軍閥(霸道)  
⇒科挙〜儒教の経典から出題 cf 宦官…科挙を経ずに皇帝の臣下となる
- ・日本の律令制〜天皇の権威+貴族の統治 ⇒国家機構の空洞化・私物化 ⇒武家政権

3) 中国的法観念の特質

- ・日常の行為規範は、法ではなく儒教道徳にもとづく 基層の共同体の自治
- ・法を厳格に適用するかは、支配者の裁量 ∴法は人民を保護しない⇒人民の法嫌い
- ・法よりも政治が優位 英米法のような独立の法曹資格が存在せず 法と生活の分離

〜PR〜

朝日カルチャーセンター ×東京工業大学・ジョイント講座

2月1日(土) 午後3〜5時 会場: 東工大・大岡山キャンパス 西9号館W933教室

オヒ卓月魚羊・徹底分析 〜こんなに困った北朝鮮〜 2500円(当日受付可)

問い合わせ 03-5734-2667 (橋爪研究室)

□9□ 日本社会と法

1) 律令法から中世法、近代法へ

- ・日本の律令制～天皇の権威+貴族の統治 ⇒国家機構の空洞化・私物化 ⇒武家政権
- ・律令(国法体系)→例外事項(令外官ex蔵人頭、征夷大將軍; 不輸不入權)→固有法
- ・式目(慣習法=武家法) ex 関東御成敗式目 土地所有裁判 固有法と律令の関連曖昧
- ・明治法体系 王政復古～律令への復帰→専制君主制→内閣制→立憲君主制(議會制)

2) 一揆と村八分

- ・惣村結合(一揆)～不在領主化した武士と対抗 村の固有慣行が法規範化
- ・「家」制度 土地登記(売買禁止)と納税義務→成員の固定化→保守的合意形成

3) 法の支配と空気の支配

- ・法の支配(rule of law): 明示的で正統な法+法の前の平等+行政権/司法権の分離  
西欧中世の王権は、法曹集団や教会と並立 ⇒立法・司法権を奪取 ⇒絶対王政
- ・空気の支配: 全員参加の共同社会では、反対のコストが高い ⇒全員一致 ⇒空気  
空気の支配は、意思決定責任を不明確にする ex 会議の儀式化(本尊秘仏化の法則)

□10□ 明治国家と法

1) 幕藩法と近代法

- ・幕藩制～個別大名の高度な自治権(立法・司法・課税・軍事・貨幣発行…)を認め、  
大名の連合体として中央政府を組織 家産官僚制にもとづく連邦政府
- ・明治維新とともに、専制君主制に移行(単一の法空間の成立)  
人の空間的・社会的移動の自由 物資の移動の自由 外資と技術・知識の導入

2) 明治憲法と法

- ・初期専制制～勅令・太政官令(天皇の絶対権にもとづく) →内閣制
- ・立憲君主制～法律の「輸入」 憲法←ドイツ 民法←フランス 社会実態と乖離  
機関説論争: 天皇は憲法のもとの国家機関か、超憲法的な絶対者か cf イラン
- ・条約改正問題…江戸幕府の結んだ不平等条約を、明治政府は継承(∴政権の正統性)  
「富国強兵・万邦対峙」: 明治国家は、欧米列強と対等の存在を絶対目標に

3) 法をめぐる日本人の誤解

- ・明治国家の体験 公=国家=天皇=官僚/民=私企業・家=庶民=民間 国家≠教会
- ・戦後日本の体験 公=国家=官僚に対する疑念 ⇒軍を否定(九条)⇒私企業≠教会
- ・戦後民主主義は「法の支配」ではない 古典的な三権分立は社会実態と乖離  
ex 官僚の立法、政党の統治権、財政投融资の政府裁量 ⇒国会の空洞化
- ・多数決と全員一致 ふたつはまったく正反対の原理 日本人の多くは混同
- ・法はうるさいもの、面倒なもの ↔ 法は個人を守るもの、権力を統制するもの

□11□ 民主主義とリベタリアニズム

1) リベタリアニズムとは何か

- ・福祉国家へのアンチテーゼ 大きな政府: 税金を集め過剰な公共サービスを提供
- ・徴税は、人民を抑圧する権力の発動、自由の制限 ⇒徴税は、最低限に制限すべき  
⇒限定国家: 軍事・外交など限られた業務のほかは、すべて民営化する

- ・リベタリアニズム: 高度な個人の自由×高度な経済の自由

↔ リベラリズム: 高度な個人の自由×限られた経済の自由(国家が市場に介入)

↔ 保守主義: 限られた個人の自由(国家が伝統を支持)×高度な経済の自由

2) 自由の根拠: 身体と財産

- ・身体: 個人に与えられた、自由の根拠 身体の不可侵性 身体の個人支配権  
⇒中絶の自由? 臓器売買の自由? 売春の自由? 薬物使用の自由?
- ・財産: 身体的活動(労働)によって得られた事物 →排他的に個人に帰属(所有権)  
財産の所有は、個人の自由の基礎である  
⇒課税は合法? 相続は合法? 不労所得は合法? 法人所有・共有財は合法?

3) 公共性とは何か

- ・公衆 the public: ふつうのおじさん、おばさんが集まって社会を組織している状態  
↔ 家族～社会より小さい単位で、組織しなくても個人が関係を調整できる団体  
↔ 政府～社会に基礎をおき、公衆から委任され公共サービスを行なう代理人
- ・政府の公共性は派生的 政府は公衆の代理人(agent)である
- ・公衆の行なうコミュニケーションはすべて公共的 →ルール(法)の設定を含む  
民事の契約(商取引)、教育、言論(ジャーナリズム)、政府の設立、NGO設立

□12□ 国際社会と法

1) 国際社会(international community)とは何か

- ・国際社会: 主権(sovereignty)をもった国家(nation)の集まり 上級権力なし
- ・国家と国家の間の [ 友好的な関係 貿易・援助 互恵平等  
敵対的な関係 断交・制裁・戦争 自衛権 同害報復の権利 ]
- ・国際法: 国際社会が従う慣習的な法(ルール) 一部は条約として成文化

2) 国際法は法なのか

- ・国内法…法の効力は、裁判や政府の強制力によって担保されている  
国際法…法の効力は、対抗措置や制裁や戦争によって、漠然と担保されているのみ  
だから国際法は法でない? ⇒ハート『法概念』は、国際法も法(慣習)とする
- ・条約や国際法は、憲法(主権)と対等か、むしろ優位する場合もある  
ex 日本国憲法とサンフランシスコ平和条約 日本の領土の範囲、東京裁判、…
- ・国際法が妥当でなかった場合 (たとえば東京裁判のA級戦犯、日韓基本条約、…)  
[ 確立した国際法は、現在の国際社会の秩序の基礎であり、現状維持に利益がある  
妥当でない国際法は、正義と人びとの権利に反しており、現状変更の意味がある ]

3) 日本国をとりまく国際法の問題

- ・憲法問題 戦争放棄(個別自衛権あり、集団自衛権なし) vs 国際社会の正義  
国連憲章は集団自衛権を承認 国連軍・多国籍軍は集団自衛権の発動 自衛隊?
- ・歴史問題 東アジアの国々の団結を阻害  
サンフランシスコ平和条約、日韓基本条約、日中平和条約、…～賠償請求権の放棄  
慰安婦問題、北朝鮮への補償、強制連行の個人補償、…～未解決の人権問題
- ・国際化の問題 日本の国内規準と、国際社会の規準がずれている  
日本文化～集団のなかの不文律が優先 ⇒意図せざる排外主義 ⇒国際的地位低下  
国際化は、コストがかかる。しかし、個人に優しい社会をつくるため必須の課題

山本七平『空気の研究』（山本七平ライブラリー1）文藝春秋  
（富士通経営研修所）

2002. 12. 18  
橋爪大三郎

「空気」：《非常に強固ではば絶対的な支配力をもつ「判断の基準」であり、それに抵抗する者を異端として、「抗空気罪」で社会的に葬るほどの力をもつ超能力》16  
《対象へる「臨在感的把握」に基づく判断基準》22

単純な「空気発生状態」の基本図式23／「空気の基本型」24／「空気の一方向支配」33  
：《臨在感的把握が絶対化される対象を、仮に一つとし、しかも相互の感情移入による相互の臨在感的把握が起こりえない、最も単純化された場合》33

感情移入の絶対化（対象と自己との区別がつかなくなった状態、それを阻む対象を悪として排除しようとする心理的状态）→対象の臨在感的把握→空気の発生

《二方向・二極点への臨在感的把握を絶対化し、その絶対化によって逆にその二極点に支配されると、……完全に「空気に支配され」て身動きできなくなる例》33

西南戦争～官軍／賊軍～《「対立概念で対象を把握すること」を排除すること》37

一神教（モノテイズム）…《臨在感的把握の絶対化に基づく“空気の支配”は「悪」》50  
アニミズム…《「全体空気拘束主義」》52

「空気」に「水を差す」～《「日本的・無意識的通常性的作用（通常性作用）」》76

通常性～《「日本の情況倫理とその奥にある論理」》80～《「情況への対応」だけが「正当化の基準」とされる》83～《「固定倫理」という共通の尺度がない》85～《伸縮自在な物差に相当する倫理的尺度が「情況」》93～《「オール3」的情况倫理》92

《日本の情況倫理は…そのままでは規範にはなりえない》94 →「一君万民」／平等主義

《「空気」を創出しているものも、結局は「水＝通常性」》96 ～日本の儒教的規範 99  
～《この「一君万民・情況倫理」…の世界は結局、いくつかの集団に分裂し、その集団の間には、相互の信頼関係は成り立ち得なくなる。》105

課題（空気の研究）

2002. 12. 18

あなたの会社には問題があり、このままではやがて危機を迎えます。  
あなたは、どこに問題があるかをよくわかっており、どのように改革を進めればよいかのプランも持っています。

ところが、あなたの部下は危機を認識しておらず、現状に満足しています。また、あなたの上司は保守的で、問題を理解する能力もありません。

このようなとき、あなたはどのように行動しますか。

★あなたの方針、最初にやること、つぎにやることを考えて下さい。  
それを、以下にメモして下さい。

★つぎに数人のグループにわかれ、互いのメモをみて、討論して下さい。

〜〜 メ モ 〜